

国立国語研究所学術情報リポジトリ

The Educational Film Series for the Japanese Language : Basic Level : Teacher's Manual Unit 3

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003125

16mmフィルム／ビデオテープ

日本語教育映画 基礎編
教師用マニュアル

ユニット **3** (第11巻～第15巻)

国立国語研究所

前 書 き

この「日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル」は、「日本語教育映画基礎編」を効果的に利用するための教授者用手引書として作成しました。

「日本語教育映画基礎編」は、日本語を母語としない学習者が日本語を学ぶための初級用映像教材で、1巻5分から8分の作品30巻で構成されています。各巻、独立した学習内容と主題を持っているので、日本語の授業で教科書と併用する副教材として個別的に利用することもできますが、また基礎的日本語能力を実践的に身につけるための教材として、系列的に順次利用することも可能です。

このマニュアルは、映画各巻の学習内容と主題について簡潔に解説し、ユニット（映画5巻分）単位でまとめました。日本語教育映画を効果的に利用するための一助になれば幸いです。

昭和59年11月

国立国語研究所長

野元菊雄

日本語教育映画 基礎編 学習項目表

題名及び副題	主要学習項目	その他の学習項目
1 これは かえるです —「こそあど」+「は～です」—	1. 「こそあど」の用法 2. ～は～です	1. ～をください
2 さいふは どこにありますか —「こそあど」+「～がある」—	1. 「こそあど」の復習 2. ～があります 3. 「は」と「が」の違いの導入	1. ～は？ 2. ～です 3. います
3 やすすくないです、たかいです —形容詞—	1. 形容詞の意味・用法	1. よ、ね 2. 青い色の
4 きりんは どこにいますか —「いる」「ある」—	1. います、あります 2. だれか/だれも、何か/何も	1. 慣用表現 よろしく願います etc.
5 なにを しましたか —動 詞—	1. 基本的な動詞の意味・用法 2. ～ます/ました 3. 対象語(目的語)、時、場所の言い方	1. ～時、～時間
6 しずかな こうえんで —形容動詞—	1. 形容動詞の意味・用法	1. 慣用表現 もっといかがですか etc. 2. ね
7 さあ、かぞえましょう —助数詞—	1. 助数詞	
8 どちらが すきですか —比較・程度の表現—	1. 比較・程度の表現 2. ～は～がじょうず/へたです ～は～がすき/きらいです 3. ～は～ができます 4. ～は～が～	1. ～は～がほしい/～たい (cf 18) 2. どちら/どれ/どんな/どの 3. こちら/こっち
9 かまくらを あるきます —移動の表現—	1. 移動に関わる動詞 2. ～ませんか ～ましょう } (cf 13)	
10 もみじが とても きれいでした —です、でした、でしょう—	1. ～です/でした/でしょう 2. ～だ/だった(待遇表現) 3. ～に行く/来る (cf 14)	1. ～のです(cf 12) 2. ごろ、ぐらい 3. ～月、～日、期間 4. 時の表現
11 きょうは あめが ふっています —して、している、していた—	1. 「～て」形の導入 2. ～ている、～ていた	1. 数・量の言い方 5分、三人etc. 2. 二人称の○○さん 3. ～とも、～でも 4. 前後関係 まず、それからetc.
12 そうじは してありますか —してある、しておく、 してしま—	1. ～である 2. ～ておく (cf 21) 3. ～てしまう	1. ～のです 2. 会話の始動・展開・終結の語 3. あいさつなどの慣用表現 いつてらっしゃい etc.
13 おみまいに いきませんか —依頼・勧誘の表現—	1. ～をください ～て ～てください ～てくださいませんか ～ませんか } (cf 9) ～ましょう } ～ないでください	1. ～でもいい 2. ～てはいけない 3. ～なくてはいけない ～なければいけない 4. ～てみる (cf 17) 5. 「で」の用法 6. ～なんです 7. 数・量の言い方 8. 発話の起こし(文の接続)
14 なみのおとが きこえてきます —「いく」「くる」—	1. 行く/来る 2. ～ていく/くる	1. 動詞による連体修飾
15 うつくしいさらに なりました —「なる」「する」—	1. 「なる」「する」の意味・用法	

	題名及び副題	主要学習項目	その他の学習項目
16	みずうみのえを かいたことが ありますか —経験・予定の表現—	1. することがある 2. したことがある 3. することに 4. することになる	1. ～たり、～たりする
17	あのいわまで およげますか —可能の表現—	1. 可能動詞 することができ 2. 可能動詞＋よくなる	1. ～やすい/にくい/すぎる 2. ～といい 3. ～ながら 4. ～てみる (cf 13)
18	よみせを みに いきたいです —意志・希望の表現—	1. するつもりだ ～(よ)うと思っている 2. ～たい/たがる ほしい/ほしが 3. する/している/したところだ 4. したばかりだ	1. 材料「で」(～でできている)
19	てんきが いいから さんぼをしましょう —原因・理由の表現—	1. ～から、～ましょう/～ません か/～てください 2. ～ので、～ 3. ～て、～(理由) 4. ～らしい ～ようだ	1. 名詞句化の「の」 2. 存在・非存在の「ある」「ない」 時間がある etc. 3. ～てから～ 4. ずいぶん、せっかく、 すっかり etc.
20	さくらが きれいだそうです —伝聞・様態の表現—	1. ～そうだ (伝聞) 2. ～そうだ (様態) 3. ～ようだ (推定) ～らしい (推定)	1. かしら 2. たしかに、どうやら、 とにかく etc.
21	おけいこを みに いっても いいですか —許可・禁止の表現—	1. ～でもいい/ かまわない 2. ～なくてもいい 3. ～てはいけ 4. ～なければい け ない/ならない 5. ～なくてもはいけ 6. ～したほうがいい 7. ～するようにしてください	1. ～する前に、～してから 2. ～ておく (cf 12)
22	あそこに のぼれば うみがみえます —条件の表現1—	1. ～と、～ 2. ～ば、～ 3. ～たら、～ 4. ～なら、～	
23	いえが たくさんあるのに とてもしずかです —条件の表現2—	1. ～ても、～ 2. ～のに、～ 3. ～けれども、～ 4. ～にもかかわらず、～	1. ～まま
24	おかねを とられました —受身の表現1—	1. 受身の表現(他動詞を中心に)	1. ～と、～した 2. ～(よ)うとする
25	あめに ふられて こまりました —受身の表現2—	1. 受身の表現(自動詞を中心に)	1. ～し、～し、～ 2. ～たびに
26	このきつぷを あげます —やり・もらいの表現1—	1. やる/もらう/くれる	慣用的表現
27	にもつを もって もらいました —やり・もらいの表現2—	1. ～てやる/もらう/くれる	慣用的表現
28	てつだいを させました —使役の表現—	1. 使役の表現 (～てもらう) 2. 使役受身の表現	慣用的表現
29	よく いらっしゃいました —待遇表現1—	1. 敬語	慣用的表現
30	せんせいを おたずねします —待遇表現2—	1. 敬語	慣用的表現

目次

日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル

ユニット3

前書き	1
学習項目表	2
この本の構成と使い方	5
第11巻 きょうは あめが ふっています — して、している、していた —	
目的・構成	7
学習項目	8
「～て」形 中止法としての「～て」形 「～ている」 ほか	
使用にあたって	11
シナリオに沿って	12
第12巻 そうじは してありますか — してある、しておく、してしまう —	
目的・構成	21
学習項目	22
「～である」「～しておく」「～してしまう」「～さん、～ですか」	
「～のです(～んです)」	
使用にあたって	28
シナリオに沿って	29
第13巻 おみまいに いきませんか — 依頼・勧誘の表現 —	
目的・構成	43
学習項目	44
依頼表現 勧誘表現「～ませんか」「～ましょうか」「～ましょう」	
許可・禁止・必要・義務の表現 「～てみる」	
使用にあたって	48
シナリオに沿って	49
第14巻 なみのおとが きこえてきます — 「いく」「くる」 —	
目的・構成	61
学習項目	62
「行く／来る」「～ていく／～てくる」 動詞による連体修飾の用法	
シナリオに沿って	65
第15巻 うつくしい さらに になりました — 「なる」「する」 —	
目的・構成	77
学習項目	78
「なる」「する」の意味・用法 省略	
使用にあたって	80
シナリオに沿って	82
映画およびこの本の作成関係者	88

この本の構成と使い方

映像教材には、中心学習項目のほかに、さまざまな内容がふくまれています。授業に使用するにあたっては、制作者が意図してとり入れた要素もまたそうでない要素も、できる限り細かい検討を行ってから利用計画を立てるのが望ましいことです。事前知っておくべき内容を教授者が確認し、自分のものにするために、このマニュアルでは、どのような種類の情報が教材のどの部分に出現するか、そしてその情報をどう理解し指導に役立てたらよいか、ということを中心に編集してあります。

以下、このマニュアルの構成を追って、編集方針と使い方を述べていきます。

目的・構成——映画の全体像、内容の把握

各巻の最初のページに、その巻の主要学習項目、ストーリーの流れ、学習項目の出現のようすを表にして示しました。各巻のこのページだけに目を通していくことによって、映画全体の内容把握、また授業計画の作成の参考になります。なお、表の「カウント」と記した空欄は、テープカウンターの数値を書き入れるためのものです。

学習項目——文法・文型の整理

この映画は、各巻ごとに表現文型を中心にまとめてあります。主要学習項目で、その巻で取り上げた文法・文型の基本的な意味・用法を、日本語教育の観点から解説しました。その巻を授業で扱うにあたって、文法知識の再確認のために利用できます。

シナリオに沿って——「語彙」「文法」など項目別に配列

ページの上部にシナリオを提示して、その内容に関する情報や解説を同じページ内に示しました。なるべく他の分冊や他のページを参照することなくそのページだけで必要な情報が得られるように配慮しました。そのため、同じような解説が重複して現れることをあえて許容しています。

全体を「語彙・表現」「文法」「留意点」「生活・文化」の四つの項目にわけてその順に配列し、個々の事項をさがし出しやすくしました。また、ひとつの項目、たとえば「文法」だけをページを追って通読することにより、短時間でその項目についての全体像をつかむということもできます。

以下、四つの項目について述べます。

■語彙・表現

教授者として知っておくべき語句の意味用法と、学習者に与える説明というふたつの観点から、語彙を取り上げました。おもにシナリオに現れた用例について簡

単な語釈を与え、また類似語・関連語のあいだでの意味・用法の異同についても扱っています。対語は「↔」を、その他の関連語は「→」を付して示しました。さらに、映像には出現するが、せりふには現れない語を「映像⇒」という印をつけてまとめました。慣用表現などについても取り上げました。

■文法

せりふとして出現したそれぞれの文は、場面や文脈など多くの要素との関連で形式や意味内容が成り立っています。ここでは「学習項目」で述べた文法知識を前提とし、シナリオの文脈を参照しながら、主要学習項目やその他の文法的な事項がどう運用されているか、解説してあります。

■留意点

「文と文、発話と発話のつながり」といった、談話レベルでシナリオをとらえ、その規則や注意すべき点を解説しました。また日本的なコミュニケーションのしかたに関する注意など、文法だけに着目しては見すごしがちなものも取り上げ、さらに談話関係に限らず授業にあたって注意しておいたほうがよいことがあれば言及しました。

■生活・文化

日本文化や日本事情に関する知識は、日本で生活したり日本人と接するとき役立つものと考えられます。また、練習の題材として、あるいは学習動機を高めるための素材として教室内で取り上げる必要もあります。ここでは生活・文化についてなるべく具体的に説明を加えました。

使用にあたって

以上のほか、巻によってはこの欄を設け、「効果的な使い方」、「練習帳について」の各内容を取り上げています。このうち「練習帳について」は、このマニュアルとは別に刊行している「日本語教育映画 基礎編 練習帳」を授業や自習で使うにあたっての注意点と使い方を述べたものです。また、「トピック」という標題で、おもに生活・文化情報などについて補足説明をした巻もあります。海外の教室などで、特に日本事情の具体的なデータが不足するようなときに利用できると思います。

—— 注 意 ——

このマニュアルは、映画にふくまれる各種情報についての客観資料を提供することを主目的としています。このマニュアルが指導上の教案に代わるものではありませんので、解説した内容のすべてを直接学習者に与えようをすると不適當な場合が生じます。個々の指導目標や学習段階に即して重要度を吟味したうえで、利用できる情報を取り上げるようにしてください。

第 **11** 卷

きょうは あめが ふっています

— して, している, していた —

目的・構成

1 目的

動詞一般の導入を土台に、動作・作用の推移・連続を表す言い方「～て」と、動作・作用の継続を表す言い方「～ている」「～ていた」をおもな学習項目としている。

2 構成

この映画は、三つの場面からなっている。場面Ⅱでは、この巻の学習項目が言語表現を伴わずに映像表現されている。それをほさんで場面Ⅰはナレーション、場面Ⅲは会話体でせりふが展開する。ある雨の日の下宿が舞台となって学生たちの生活が描かれている。

場面	文	内 容	学 習 項 目	カウント
Ⅰ	1	① 下宿の庭→伊藤の部屋 ⑥ 伊藤が部屋で手紙を書いている。	「～ている」(動作・作用の進行) 「～ている」(動作・作用の結果の状態)	
	2	⑦ 伊藤の一日の生活が、時間を追って描かれる。(静止画)	中止法の「～て」	
	3	⑫ 浅草の回想(画面は白黒) ⑮	中止法の「～て」	
Ⅱ	/	雨の日の学生たちの生活。	言語表現はないが、進行の意味の「～ている」表現を映像化。	
Ⅲ	1	⑯ 本を読んでいた松沢が伊藤の部屋に来て雑談。その後、松沢はタバコを買いに行く。	「～ている」(動作・作用の結果の状態) 「～ている」(動作・作用の進行)	
	2	⑳ 大山が伊藤の部屋に来て、浅草の写真を見ながら雑談。 ④⑦	「～ている」(動作・作用の結果の状態) 「～ている」(動作・作用の進行)	
	3	④⑧ 烏井が伊藤の部屋に来る。松沢も帰ってきて4人で雑談。 ⑤③ 降り続く雨の描写。	「～ている」(動作・作用の結果の状態) 「～ている」(動作・作用の進行)	

学習項目

1 主要学習項目

① 「～て」形

動詞には五段動詞、一段動詞、不規則動詞があり、「～ます」形からは次のように「～て」形を作る。

五段動詞

- | | | |
|---------------------|--------|-------|
| 1. ～します (話します) (サ行) | → ①て | (話して) |
| 2. ～ちます (待ちます) (タ行) | } → ②て | (待って) |
| 3. ～ります (乗ります) (ラ行) | | (乗って) |
| 4. ～います (買います) (ア行) | | (買って) |
| 5. ～きます (書きます) (カ行) | → ③て | (書いて) |
| 例外：行きます → 行って | | |
| 6. ～ぎます (泳ぎます) (ガ行) | → ④で | (泳いで) |
| 7. ～みます (読みます) (マ行) | } → ⑤で | (読んで) |
| 8. ～びます (遊びます) (バ行) | | (遊んで) |
| 9. ～にます (死にます) (ナ行) | | (死んで) |

一段動詞 (-i ru、-e ru で終わる動詞)

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| ～ます (見ます) | } → | ～て (見て) |
| (食べます) | | ～て (食べて) |

不規則動詞

- 来ます → 来て
 します → して

この映画、基礎編の流れに即してみると「～て」形は「ます」形からの導入となるが、一般の日本語教科書では「基本形」から「～て」形の導入をしているものも多い。その場合、学生が困惑すると思われることを参考までに述べておく。

一段動詞は基本形が「-i ru」「-e ru」で終わるが、五段動詞の中にも例外的に「-i ru」「-e ru」で終わるものがある。これらは「～て」形を作る際、学生にはまぎらわしい。この場合、例外的なものはそのまま覚えるということで、初級段階で比較的できそうな動詞を次にあげる。

はいる、切る、知る、走る (「-i ru」のもの)

帰る、すべる、照る、しゃべる (「-e ru」のもの)

また、「～て」形が同じだったり、似ていたりして、学生が混乱しがちな動詞もあるが、それらの代表的なものは次のようなものである。

- | | |
|-----------|-----------|
| 〔行く → 行って | 〔読む → 読んで |
| 〔言う → 言って | 〔呼ぶ → 呼んで |

来る → 来て	する → して
着る → 着て	知る → 知って
切る → 切って	

「～て」にはさらに、あとに補助動詞を付けて多様な意味を表す。

動詞+	アスペクト・もくろみ	：～ている(第11巻)、～てある/～てしまう /～ておく(第12巻)、～てみる(第12、17巻)、など
	依頼、許可、禁止	：～てください(第13巻)、～てもよい/～て はいけない(第13、21巻)、など
	やり・もらい	：～てやる/～てもらう(第27巻)、など
	その他	：～ても(第23巻)、～てさえ、～てすら、など

上記のアスペクトとは、高橋太郎「すがたともくろみ」(『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦編 むぎ書房、1976)によると、「動詞のあらわす動きの過程のどの部分を問題にするかという文法的な意味」である。また、もくろみとは「動作が何のためにおこなわれるかを表す文法的な意味」である。以下の説明は、高橋の論をもとにしている。

② 中止法としての「～て」形

この巻では、場面Ⅰ-2とⅠ-3で集中的に扱われている。以下に意味・用法を分類し、この巻に表れた表現をあげる。

(1)動作・作用の行先を表し、前件と後件を軽く順序づける。

⑦朝はいつも7時に起きて、かんたんな朝食をとります。(ほかに⑧⑩⑪⑭)

(2)動作・作用の同時性を表す。

⑭……それから、町を歩いて、買い物をしました。(ほかに⑮)

(3)動作・作用の時間的経過を表す。

②おかあさんがなくなって何年になりますか。

(4)単なる対比、並列、列叙を表す。

①あなたは行って、ぼくは残る。

(5)下にくる語を修飾し、条件・原因・理由を示す。

③8時間も歩いて、足にマメができてしまった。

(6)手段を表す。

④働いて借金を返す。

この映画に出てくるのは、(1)と(2)の例である。「～ながら」におきかえて文意が通じる場合は(2)の用法であるといえる。

③ 「～ている」

場面Ⅰ—1とⅢで集中的に扱われている。以下に意味・用法を分類する。

(1)動作・作用の進行を表す。

①今日は、雨が降っています。(ほかに②③⑤②②③②⑤②⑥②⑦③④③⑥⑤②⑤③)

(2)動作・作用の結果の状態を表す。

③木の葉が雨にぬれて、ゆれています。(p.12参照)

④庭には、菊の花が咲いています。(ほかに⑥①⑦①③④②⑤①)

(3)単なる状態を表す。

①山がそびえています。

(4)経験・記録として、以前の動作・作用を表す。

②今月は、もう2回、雨が降っています。

(5)繰り返しの進行、習慣を表す。

③私は毎日、学校に行っています。

以上、「～ている」の用法に使われる動詞には、ある制限がある。「～ている」表現をとるか否か、とるとすればどの用法になるかを基準に動詞を分類したのが次の表である。

「ている」をとらない動詞	1.状態動詞	いる、ある、できる	
「ている」をとる動詞	2.継続動詞	a のびる、着る	c 食べる、見る
	3.瞬間動詞	b パンクする、死ぬ	d ぶつかる、目撃する

状態動詞とは、もともと、ある状態を表すための動詞なので、「ている」をとらない。分類を横に見て、継続動詞とは、動作・作用に多少の時間を要するもので、それが目の前で起こったとき、動作・作用が進行の途中であることを指摘できる性格のものである。したがってこの種の動詞に「ている」が付くと、上記(1)の用法になり、進行の意味を表す。逆に瞬間動詞とは、その動作・作用が瞬間的に終わってしまい、結果だけが残るものである。一方、分類を縦にみると、a類、b類の動詞は、「主体に変化を生ずる」動詞であるのに対し、c類、d類の動詞は「主体に変化を生じない」動詞である。「主体に変化……」とは動作・作用のあとさきで、その主体の状態が変わってしまうもので、これには他動詞があてはまらないことが多い。a類、b類の動詞は(2)の用法、すなわち、結果の状態の意味を表す。これからわかるように、a類の動詞は、場合によって(1)、(2)両方の意味に使われることになる。

④彼は今、服を着ています。……進行

⑤彼は黒い服を着ています。……結果の状態

また瞬間動詞で、主体に変化を生じないd類の動詞は、(1)(2)のいずれの意味にもならない。これに「ている」が付くと、(4)の用法の、経験・結果の意味になる。

2 その他の学習項目

数量・時を表す名詞の副詞的用法

数量・時を表す名詞は、単独で、あるいは助詞を伴って副詞的に使われる。この巻では、場面Ⅰ－２とⅠ－３で、それぞれ主人公伊藤が自分の生活を述べる部分にでてくる。

⑧ 8時に下宿を出て、駅まで5分歩いて、板橋駅で電車に乗ります。(時)

⑫ 下宿には友達が3人います。(数量)

時を表す名詞の用法については第5巻で提示されているが、この巻では数量の名詞についての例もでてくるので、あわせて取り上げるのが望ましい。

⑫' 下宿には、3人の友達がいます。

のような言い方もあるが、初期の学習段階では⑫の形で導入するのが一般的である。

使用にあたって

効果的な使い方

この映画の特徴は、場面Ⅰ－２とⅠ－３が静止画で構成されている点と、場面Ⅱではせりふなしで「～ている」表現を映像化している点である。場面Ⅰ－２は、伊藤の一日の生活が、時間の流れにそって描かれており、時間はそのつど、時計で示されるので、音声を消して学生に口頭で伊藤の生活を表現させるなどの練習ができる。場面Ⅱにおいては、「～ている」の基本的な言い方の練習ができるだろう。

また、この映画では、場面Ⅲにおいてはじめて会話でせりふがでてくるが、Ⅲ－１、２は、登場人物が２人ずつで、Ⅲ－３で、全員が伊藤の部屋にそろろうという設定になっている。ただ、この映画では、初級の段階ということで、友人同志の会話であるにもかかわらず、会話体はすべて「です・ます」体になっているため、不自然だと思われる点も確かにあるが、動詞の導入という段階では、やむをえないことであろう。「です・ます」体や普通体の違いの復習としてみせる場合には、普通体に言いかえさせてみるのもおもしろいであろう。

シナリオに沿って

I 1 1	ナレーション ① 今日は雨が降っています。 ② 風も少し吹いています。 ③ 木の葉が雨にぬれて、ゆれています。 ④ 庭には菊の花が咲いています。 ⑤ わたしは今、自分の部屋で手紙を書いています。 ⑥ わたしは東京の板橋に下宿しています。
-------------	---

■ 語彙・表現

木の葉、菊の花

少し：→ちょっと↔たくさん、たいへん

自分：1.その人(今、話題にしている人) 2.わたし。ここでは、2の意。⑱参照。

板橋：東京都北部にある区、また、その町名。

下宿する：他人の家の部屋を借りて住むこと。

映像 ⇒ 机 いす 本だな ベッド 炊事道具

■ 文法

①雨が降っています。 ②風も少し吹いています。 ③ゆれています。 ⑤手紙を書いています。

動作・作用の進行を表す「～ている」。

③木の葉が雨にぬれて(います)。 ④…花が咲いています。 ⑥下宿しています。

動作・作用の結果の状態を表す「～ている」。③の「ぬれて」は単なる中止ともとれるし、「ゆれています」の「います」と結びついて、「～ている」表現を形成しているとも考えられる。

■ 留意点

場面Iはナレーションで、下宿の庭の情景描写から始まって、主人公の日常生活の紹介におよんでいる。このナレーションは主人公が書いている手紙を音声化したものと考えられる。学生に特にそれを指摘する必要はないが、ここでは主人公が手紙という形で自身や周辺についての説明をしていることに注意。

■ 生活・文化

秋の長雨：庭に菊の花が咲いていることから、季節は秋。日本の太平洋側で最も降水量の多い月は梅雨時でなく9月。

I 2	ナレーション ⑦ 朝は、いつも7時に起きて、かんたんな朝食をとります。 ⑧ 8時に下宿を出て、駅まで5分歩いて、板橋駅で電車に乗ります。 ⑨ そして、池袋駅で電車を降ります。 ⑩ 学校は、9時に始まって、4時ごろ終わります。 ⑪ 夜は、7時ごろ食事をして、少しテレビを見て、それから、11時ごろまで勉強して、寝ます。
--------	--

■ 語彙・表現

朝食をとる：朝の食事をすること。

食事をする：→「食事（朝食・昼食・夕食）をとる」

映像 ⇒ 時計 朝食（パンと牛乳） 駅 電車 教室

■ 文法

⑦ 7時に起きて ⑧ 8時に下宿を出て、駅まで5分歩いて ⑩ 9時に始まって

⑪ 7時ごろ食事をして、少しテレビを見て、11時ごろまで勉強して

中止法としての「～て」。動作・作用の先行を表し、前件と後件を軽く順序づける。この場面は、伊藤の一日の生活を時間の経過にしたがって述べている部分なので、これらの「～て」形は、時間的順序を表す用法の典型である。

⑪ 「それから」は「まず」と呼応させると、順序感を強める。

⑧ 駅まで5分歩いて

数量を表す名詞の副詞的用法。5分間の意。

■ 留意点

時間の流れにしたがって伊藤の生活を描くため、画面がスタイル（静止画）で構成されている。音を消して、画面の時計を見ながら、口頭で伊藤の生活を表現させる練習ができる。

ここに出てくる語は、多く第5巻と共通であり、また、助詞は第5、9巻と多く共通であるのでそちらを参照してほしい。

■ 生活・文化

板橋：東京都北部にある区、また町名。⑧ 「…駅まで5分歩いて…」とあるところからみて下宿は板橋の町内であろう。板橋区、豊島区、北区の一带は城北地区と呼ばれ東京東部の下町とはまた違った、落ちつきのある庶民の町である。

I 3	<p>ナレーション ⑫ 下宿には友達が3人います。</p> <p>⑬ 先週の日曜日、この3人の友達と浅草へ行きました。</p> <p>⑭ まず、お寺へ行って、それから町を歩いて、買い物をしました。</p> <p>⑮ 帰りに、みんなで焼鳥を食べて、ビールを飲みました。</p>
II	(せりふなし)

■ 語彙・表現

まず／それから：時間的呼応を表す。

買い物をする：→(仕事をする、勉強をする、料理をする)

帰りに：→(終わりに、始めに)

映像 ⇒ 手紙 テレビ ギター

■ 文法

⑫友達が3人います。 ⑬この3人の友達と浅草へ行きました。

⑫は数量を表す名詞の副詞的用法。⑫は中立的な言い方だが、⑬では、「この」「3人の」が「友達」の範囲を明確化している言い方である。

⑭まず、お寺へ行って、それから町を歩いて ⑮みんなで焼鳥を食べて

「行って」は、動作・作用の先行を表し、前件と後件を軽く順序づける。(→まず、行きました。それから……)「歩いて」「食べて」は動作・作用の同時性を表す。「歩いて」は「歩きながら」、「食べて」は「食べながら」で言いかえても文意は変わらない。

■ 留意点

場面IIでは、4人の人物のそれぞれ進行中の動作を見せて、進行の意味の「～ている」表現を映像化している。音声表現はもりこまれていないので、教室ではこれを見ながら学生に発話させる練習をすることができる。

■ 生活・文化

浅草：東京都台東区にある門前町、繁華街。「浅草へ行く」といえば、セリフにもあるように「お寺にお参りに行く」と同義であることがしばしばである。お寺は、金亀山浅草寺。聖観音宗の本山で、坂東順礼十三番の札所。その門前の仁王門から雷門まで、みやげ物売る仲見世が並ぶ。(さらに周囲には商店、飲食店、劇場、映画館などが集まっている。)

III 1	伊藤 ⑬ どうぞ。
	松沢 ⑭ 大山さんや鳥井さんは、来ていますか。
	伊藤 ⑮ いいえ、来ていませんよ。
	⑯ 2人とも、自分の部屋でしょう。
	松沢 ⑰ あっ、そうですか。
	⑱ あーあ。

■ 語彙・表現

どうぞ：人の申し出（ドアのノック）に許可を与える表現。

自分：1. その人（今、話題にしている人）。 2. わたし。ここでは1の意で大山さんと鳥井さんのこと。

そうですか：相手の発言内容を了解したことを表す。語尾のイントネーションによって意味合いが変化する。この場合は下降調で一種のあいづちとしての役割をもつ。

映像 ⇒ ノック 入る カレンダー

■ 文法

⑭来ていますか。 ⑮来ていませんよ。

動作・作用の結果の状態を表す「～ている」。ここでは「来ています」「来ていません」が「来る」という動作がおよぼした結果が、現在まで続いている状態を表す。

⑯ 2人とも自分の部屋でしょう。

「とも」は話題にしたものの全部がそうであることを表す。→（「子供は3人とも男です。」）「～でしょう」は話し手の不確かな判断や推量を表す。（たぶん～でしょう）この場合、「部屋にいるでしょう」の意。（第10巻参照）

■ 留意点

ここでは文末のイントネーションによって相手に与える意味合いや印象がかなり変わってくることに注意する。⑭⑮はともに尻上がりに発音されているが、⑯の場合、この尻上がりの程度が強まると、相手の言動をなじる意志表示となり、相手に不快な印象を与えることがある。

■ 生活・文化

下宿生活：日本の大学にも寮があるが、親元を離れて大学へ行く学生の多くは下宿かアパートを借りて生活する。この映画の場合、寮か下宿かは明確でないが、平均的な学生の生活が描かれている。

III	伊藤 ②	何をしていたんですか。
	松沢 ③	小説を読んでいた。
1		④ おもしろいんですが、ちょっと疲れました。
		⑤ 伊藤さんは、手紙を書いていたんですね。
	伊藤 ⑥	ええ、友達に手紙を書いていた。

■ 語彙・表現

小説：→(推理小説、探偵小説、SF、ミステリー)

おもしろい：→(楽しい、おかしい、悲しい、つらい)

ちょっと：→少し—②⑨「ちょっと、タバコ屋へ行ってきます」参照。

伊藤さんは：→(あなたは、君は、先生は、課長は)

ええ：応答語→(ああ、うん、そう)

疲れる：→「小説を読んで、ちょっと疲れました。」

■ 文法

②何をしていたんですか。 ③小説を読んでいた。 ⑤手紙を書いていたんですね。 ⑥手紙を書いていた。

動作・作用の進行を示す「～ている」の過去の形。

②何をしていたんですか。 ④おもしろいんですが、……。 ⑤手紙を書いていたんですね。

説明・説得・主張のための表現として使われ「～の(ん)です」の形。形容詞に付いたもの(④)は第10巻に既出。②⑤ではそれぞれ動詞の過去形「していた」「書いていた」に付いている。②では、相手が何をしていたのかの説明を求める表現となっているが、特にそういう強い意図を含めないで使われることもある。ただ、イントネーションによっては、相手の行動に対する疑いや不信感をあらわすニュアンスをもつこともあるので、注意した方がよい。⑤では相手の様子を見て、相手のしていた動作を確認した言い方。「～のです」については、第12巻のその他の学習項目(p. 27)参照。

■ 留意点

二人称として使われる○○さん：日本語では、「あなた」や「君」などの二人称代名詞を使う代わりに、相手の名前や役職名で呼ぶことが多い。「あなた」を教師や目上の人に使うことは、実際は、望ましくない。

■ 生活・文化

学生の読み物：松沢は小説を読んでいたが、日本の大学生の間ではマンガも人気が高い。この映画にはでていないが、下宿や、学生向けの喫茶店には、マンガの本がみられることが多い。

III 1	松 沢 ⑳	まだ雨が降っていますね。
	伊 藤 ㉑	ええ。
	松 沢 ㉒	ちょっと、タバコ屋へ行ってきます。
III 2	大 山 ㉓	伊藤さん、浅草の写真ができましたよ。
	伊 藤 ㉔	ああ、浅草の写真ですか。
		㉕ この写真は、おもしろいですね。
	大 山 ㉖	そうですね。

■ 語彙・表現

まだ：1. ある状態が変わらないで続いている様子。ここではその意味。

2. 否定をともなって、ある事態が実現していないことを示す。→(「まだ来ません。」)

ちょっと：ここでは、行為に要する時間や労力が軽微であること。少しの時間だけ座をはずすという、断りの言葉として使っている。

(写真が) できる：→(食事ができる、ビルができる、子供ができる。)

映像 ⇒ 庭 こま犬の写真 ポスター

■ 文法

㉒まだ雨が降っていますね。

動作、作用の進行を示す「～ている」。

㉒タバコ屋へ行ってきます。

この「～てくる」は、タバコ屋へ行ったあと、ふたたびこちら(下宿の方)へ戻ってくるという意味。「～てくる」については第14巻 p.63参照。

■ 留意点

㉔の「浅草の写真ですか。」は、大山の言った「浅草の写真」という共通の関心事を、思わず反復して言ったもの。こうした反復は、確認の手段としてもよく使われる。

■ 生活・文化

タバコ屋：最近では自動販売機が多くなり、タバコ屋の前にも置いてある。菓子屋や雑貨屋、スーパーでも売るところがある。

こま犬：浅草に行ったときの写真にでてくる。神社の社頭や社殿の前などに置かれている一対の獅子のような像で、魔よけのためのものとされている。

III	伊 藤 ③④	鳥居さんは、今、何をしていますか。
1	大 山 ③⑤	さあ……。
2		③⑥ さっきまでギターをひいていましたよ。
	伊 藤 ③⑦	コーヒーでも、いれましょうか。
	大 山 ③⑧	それはいいですね。
	伊 藤 ③⑨	鳥井さんも、呼びましょう。
	大 山 ④⑩	それはいい。
		④⑪ 松沢さんは？
	伊 藤 ④⑫	松沢さんは、今、タバコを買いに行っています。
		④⑬ すぐ、帰ってきますよ。
	大 山 ④⑭	ああ、そうですか。

■ 語彙・表現

さあ：質問に対する答えが見つからないときに使う。

(コーヒーを)いれる：「カップやポットにコーヒーを注ぎ入れる」という意味にもなる。ここでは、「準備から始めて、お湯をさして飲み物を作る」という意味。

さっきまで：→(今、今から、これから)

ひく：弦楽器を演奏すること。→(ギターをひく、ピアノをひく)

買いに行く：→(遊びに行く、泳ぎに行く／買い物に行く、スキーに行く)(第10巻p.69参照)

■ 文法

③④今、何をしていますか。 ③⑥ギターをひいていましたよ。

動作・作用の進行を示す「～ている」(③④)、「～ていた」(③⑥)。

③⑦コーヒーでも、いれましょうか。

ここでの「でも」は、軽い気持ちで何かを例にして大体の範囲を示すのに使われている。コーヒーを例示しながらも、相手に選択の余地を残す表現である。したがって、③⑧で「いや、紅茶の方がいいですね。」とも言える。

④⑪松沢さんは？

「松沢さんは、どう(何を)していますか(どうしている)。」の省略表現。

④⑫今、タバコを買いに行っています。

動作・作用の結果の状態を示す「～ている」。

■ 生活・文化

平均的な下宿生活。折りたたみ式の机を使ったりして狭い部屋を有効に使おうとしている。

III 3	大 山 ④5	じゃあ、鳥井さんと呼んできます。
	伊 藤 ④6	おねがいします。
	大 山 ④7	ええ。
	鳥 井 ④8	やあ、どうも。
	伊 藤 ④9	やあ。
	鳥 井 ⑤0	あ、浅草の写真ですね。
	松 沢 ⑤1	みんな、そろっていますね。
	大 山 ⑤2	雨はまだ降っていますか。
	松 沢 ⑤3	ええ、だいふ降っていますよ。

■語彙・表現

やあ／やあ、どうも：学生などの気さくな間がらで、あるいは目上から目下に対して使われるあいさつことば。目上の人には使えない。

みんな：全員。ここでは寮（下宿）の仲のいい仲間のこと。

だいふ：→（だいぶん、かなり、ずいぶん）

そろう：一か所に集まる。

映像 ⇒ コーヒーカップ 電気ポット 入れる 笑う

■文法

⑤1みんな、そろっていますね。

動作・作用の結果の状態を示す「～ている」。

⑤2雨はまだ降っていますか。 ⑤3だいふ降っていますよ。

動作・作用の進行を示す「～ている」。

■生活・文化

学生生活：この場面のように、学生たちが、ひとつの部屋に集まって、コーヒーやお茶を飲みながら話をするのは、下宿や寮などでよくみかける情景である。同じような情景はクラブの部室や、大学の研究室などでもみられる。

第 12 卷

そうじは してありますか

— してある, しておく, してしまう —

目的・構成

1 目的

第11巻に引き続き、動詞の用法の発展的学習として「～てある」「～しておく」「～てしまう」の意味・用法の言語場面に即した理解をめざしている。

2 構成

映画の舞台は、ある学生寮を中心に展開し、そこに住む男子学生と、男子学生を訪ねる女子学生の二人の行動を軸に構成されている。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ⑨	寮の中庭	伊藤、買い物からの帰り。寮のおばさんとあいさつ。	「～てある」	
II	/	伊藤の部屋(1)	買い物の品を冷蔵庫に入れる。	(「～てある」「～しておく」)	
III	⑩	洋菓子屋で	秋子がおみやげのケーキを買う。	「～しておく」	
IV	⑭ ⑳	伊藤の部屋(2)	伊藤が部屋のそうじをしている。友人の大山が来る。	「～てある」	
V	㉕ ㉑	駅 (1)	秋子が電車の中に忘れ物をしたことに気づく。	「～てしまう」-2	
VI	㉓ ㉒	おばさんの部屋	伊藤、紅茶茶碗を借りる。	「～てしまう」-1 「～しておく」	
VII	㉒ ㉒	駅 (2)	秋子の忘れ物が見つかり、もどってくることになる。		
VIII	㉕ ㉕	伊藤の部屋(3)	伊藤、秋子の到着を待っている。友人の鳥井が来る。	「～てある」	
IX	/	路上	秋子、伊藤の寮へ向かう。		
X	㉕ ㉕	伊藤の部屋(4)	伊藤、秋子を迎える。	「～てしまう」-2	
XI	㉕	寮の洗い場	秋子が紅茶茶碗を割ってしまう。	(「～てしまう」-2)	
XII	㉕ ㉕	伊藤の部屋(5)	秋子、茶碗を割ってしまったことを伊藤に話す。困る伊藤。	「～てしまう」-2	

「～てしまう」-1, -2 についてはP.24参照。 () は映像のみに現れた表現。

学習項目

1 主要学習項目

① 「～てある」

「～てある」は動作の終わった後の結果の状態を表している。

伊藤は窓を開ける。

→伊藤は窓を開けている。(動作・作用の継続・進行)

→伊藤は窓を開けた。(動作の完了)

→窓が開けてある。(結果の状態)

「～てある」は意識的に対象を変化させる動作性の他動詞をとる。「置く、並べる、洗う、書く」など行為の結果が外見に現れる動作動詞がこれに属する。この映画の中では、次のような動詞とともに使われている。

場面 I ⑥お部屋のそうじはしてありますか。

IV ⑳ほら、ビールが冷やしてあります。

㉑ハムもチーズも買ってあります。

VIII ㉔ほーう、紅茶茶碗が用意してありますね。

X ㉘ずいぶん、きれいにしてありますね。

このような意味をもつ「～てある」を伴わない動詞としては、本来、状態を表している「いる、ある」などの状態動詞がある。他に、森田良行(「基礎日本語1 1977、角川書店)によれば、結果が目で見られない行為や、結果が成果として行為主体に蓄積されない動作・行為を表す他動詞として次のような動詞をあげている。

連れる、眺める、(道を)間違える、迎える、信じる、思い出す、待つ、持つ、歌う、笑う、構う、渡る、知る

「～てある」の学習は、日本語の自動詞・他動詞の理解を前提としている。たとえば、「あく—あける」、「しまる—しめる」、「(電灯が)つく—つける」、「きえる—けす」、「ひえる—ひやす」などである。「他動詞+てある」には、同じく結果の状態の存続を表すものとして「自動詞+ている」が対応する。

ビールがひやしてある。	(他動詞+てある)
ビールがひえている。	(自動詞+ている)
戸があけてある。	(他動詞+てある)
戸があいている。	(自動詞+ている)

このような自動詞を用いた動作の結果の状態は、すでに第11巻において「花が咲

ています」などの例で学習されている。この巻では「他動詞＋てある」の形しか提示されていないが、自他の対応の形でさらに理解を深めることができる。「自動詞＋ている」と「他動詞＋てある」のニュアンスの違いは、「自動詞＋ている」は、眼前の事実の状態をそのまま描いているのにすぎないのに対し、「他動詞＋てある」は、以前にだれかによって意志的に行為がなされた結果の状態であるという意識があることだといえよう。その意味では、その行為をなした者は、必ず第三者で、話し手や聞き手は行為者とはなりえないのである。

森田良行は「文法——動作・状態を表わす言い方」(『講座 日本語教育 4』1968、早大語研)で自動詞、他動詞の分類に着目して次のようにまとめている。

～を・他動・ている	— A 窓をあけている。	} 継続・進行
	B 雨が降っている。	
～が・自動・ている	— C 山がそびえている。	} 状態を表す
	D 窓があいている。	} 作用の結果の現存
～が・他動・てある	— E 窓があけてある。	

「～てある」の用法は、上述のように結果の状態を表すほかに、前もって準備した結果が保たれているという意味で使われることがある。森田良行の表現をかりれば、「前もって準備、結果の蓄積」の用法である。このような意味で用いられる動詞は行為結果が目でとらえにくいもので、同じく森田良行(「基礎日本語 1」)によれば、

教える、答える、受ける、覚える、伝える、ほめる、見つける、着る、見る、借りる、話す、貸す、伺う、習う、送る、叱る、聞く、頼む、読む、呼ぶ、発表する、予習する、研究する

などがある。「結果の状態」の用法と違って、行為の結果が対象物の状態性にまで影響しないで、完了した結果が蓄積されていることを表しているだけであり、「人」が主語となる。動作の行為者が、話し手や聞き手であることも可能である。

わたしはそのことを母に話してある。

あなたはもう英語の予習をしていますか。

「眠ってある」「休んである」など「自動詞＋てある」の形が現れるのも、この用法に限って可能である。この用法は、この巻では扱われていないので、同時に教える必要は特にないだらう。

② 「～ておく」

「～ておく」の表現は、ある目的のために、その後のことを考慮して事前に準備しておくという意味を含んでいる。対象を変化させた後の結果の状態という点では「～である」と同じで、意志的な働きを表す動作性の他動詞をとるが、「～ておく」は行為者の意図的な目的の意味合いも強いといえよう。

㉔ ハムやチーズが買ってあります。

㉕ 伊藤はハムやチーズを買っておきました。

㉔は「買う」という行為の結果の状態を説明しているのに対し、㉕は、ある目的のために、事前に「買う」という行為を行ったという表現意図がある。㉕をさらにわかりやすくするためには、「秋子に来るから」などの理由を明示するとよい。この映画では、次の場面に表れている。

場面Ⅲ ㉖ スプーンを四本、入れておきました。

Ⅵ ㉗ ほかのは、ここに置いておきます。

X ㉘ えっ、ぼくもケーキを買っておいたんですよ。

このほかにも、「～ておく」を使って表現できる場面がいくつかあるので、多くの練習が可能である。なお、「～ておく」は未来の動作を表し、「～ておいた」は完了した動作を表している。

「～ておく」には、上に述べた表現意図のほかに、ある事態をそのままにしておく「放任」の意味合いをもつ場合や、一時的な処置を示す場合もある。

お金を机の上に出したままにしておく。(放任)

とりあえず、預かっておきましょう。(一時的処置)

㉙は、「放任」の例とも考えられるが、場面設定が不十分であるので、これらの用法は、適切な用例を用いて学習させることが望ましい。

なお、日常の会話では、「～ておく」は次のように縮約して用いられることが多い。

買っておく→買っとく

飲んでおいた→飲んどいた

③ 「～てしまう」

「～てしまう」の表現は、文脈によって意味がさまざまである。そして、その文法的解釈をめぐる、さまざまな研究があり、いくつかの分類がなされているが、ここでは、一応この映画で取り上げられている用法について、簡単に述べるにとどめたい。

(1) 完了を表す「～てしまう」

場面Ⅵ ㉚ ええ、(部屋の掃除は)もうしてしまいました。

ここで「～てしまう」は、行為の完了を強調したものである。

掃除をする

↓

掃除をしている

↓

掃除をした → 掃除をしてしまった

過程を表す動詞である継続動詞についたときにこの用法が多く用いられる。

全部食べてしまった。

すっかり読んでしまった。

すぐに書いてしまいますから、ちょっと待ってください。

などのように「全部、すっかり」などの程度の副詞とともに用いるとわかりやすい。同じように行為・動作の終了を表す表現として「～し終わる」があるが、「～てしまう」と比べてみると、「～し終わる」は「～し始める」と対になった表現で、ある行為が、ちょうど終了したという事実を述べているにすぎない。たとえば「食べる」を例にしてみると、

食べ始める → 食べている → 食べ終わる

のようになり、そこには「食べてしまう」がもつ、「残らず、すっかり」というニュアンスは見られない。

(2) 「不本意」を表す「～てしまう」

場面Ⅴ ㉗今の電車に忘れ物をしてしまったんですが……。

X ㉘電車でこれを忘れてしまったんです。

XII ㉙これ、割ってしまいました。

この三つの文に見られる「～てしまう」は、期待に反すること、予想外のことがおこったことを強調している。「期待に反する」のは、話し手にとってだけでなく、聞き手にとっても同様である。

雨に降られて、風邪をひいてしまった。(話し手にとって)

急がないと、汽車に遅れてしまうよ。(聞き手にとって)

このような事態は、自らの不注意によって招いた場合もあれば、どうすることもできないままそんな事態に陥った場合もある。

うっかりして、皿を落としてしまった。

地震で、机の上の皿が落ちてしまった。

受身や使役の形でも用いられる。

バスの中で財布をすられてしまった。

友だちを泣かせてしまった。

次のような副詞とともに用いられることが多い。

うっかり忘れてしまった。(不注意で、一回限り)

禁煙したのにたばこがあるとつい手を出してしまう。

(不可抗力、習慣からくる繰り返し)

思わず大きい声を出してしまった。(反射的、生理的)

いずれにしても、「好ましくない事態」に対する主観的な受けとめ方を表したものである。

以上は、この映画で取り上げられている例を中心に、この映画を使って学ぶ学習者の学習段階にふさわしい程度におさえたほうが効果的であると考えた結果の分類である。教授者はより詳しく「～てしまう」の用法についての知識を得るのが望ましいが、参考文献としては、以下のようなものがある。

『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦編(むぎ書房 1976)

『基礎日本語1』森田良行(角川書店 1977)

「動詞のアスペクトについて」吉川武時(『日本語教育』47号、日本語教育学会)
なお日常会話では「～てしまう」は「～ちゃう」のように縮約することが多い。

食べてしまう → 食べちゃう

行ってしまった → 行っちゃった

これらは学習者がよく耳にする表現なので、紹介しておいてもいいだろう。しかし、この段階では、使いこなせるように指導する必要はない。

2 その他の学習項目

① 「～さん、(名詞)ですか」

この表現は、一種のあいさつ表現である。相手の行為、状態、ある特定の所有物を認めた際、それを話題にして、相手に呼びかけて言うものである。この映画では、冒頭の部分に出てくる。

場面Ⅰ ①おばさん、そうじですか。

この場面は「おばさん」が庭のそうじをしているところであるが、反対に、「おばさん」から会話を始める場合には、買い物の紙袋をかかえている「伊藤」に対し「伊藤さん、買い物ですか。」

と呼びかけることができる。また、場面Ⅳでも、そうじをしている伊藤を見て、友人の大山は、

「おや、伊藤さん、そうじですか。」

ということもできる。「か」を「ね」にかえることもできるが、その場合は、相手の同調的返答を求める気分や確認の気持ちが強くなる。

この表現は、日常生活でもよく用いられるものであり、知っているると便利であるが、学習者の学習段階に応じて、また、主要学習項目の理解度とのかねあいで取り上げるかどうかを決めるとよい。

② 「～のです (～んです)」

「～のです」は、10巻、11巻において、すでに提示されているが、接続の形の用例や内容からいって、この巻であらためて取り上げるのが望ましいと思われる。

「～のです」あるいは、より口語的な表現としての「～んです」は、判断の根拠や理由を強調する表現として用いられる。疑問詞とともに用いられると、見たり聞いたりしたことについて相手に説明を求める気持ちを表している。その他、感情的な高まりを表すのにも用いられる。この映画では、多くの場面で、「～んです」が出てくるが、映像を通して、それぞれの言語場面での使われ方を適切に理解させることができる。

学習者の学習段階によっては、積極的に取り上げ、練習することが難しい場合もあるかと思われる。その場合は、聞いて理解する程度にとどめる方法もあるがより会話らしい表現に近づくためには避けて通ることはできない表現であるし、また会話を中心とした映画という性質上、この巻以降にも数多く出てくるので、この段階である程度学習させることも必要ではないかと思われる。

「～のです」の接続の形は次のとおりである。名詞「～です」の接続を学習者に特に留意させた方がいい。

「～のです」の接続の形

動 詞	行きます	→	行 く	の だ す (ん)		
	行きません	→	行かない			
	行きました	→	行った			
	行きませんでした	→	行かなかった			
形 容 詞	忙しいです	→	忙しい		の だ す (ん)	
	忙しくないです	→	忙しくない			
	忙しかったです	→	忙しかった			
	忙しくなかったです	→	忙しくなかった			
形容動詞	ひまです	→	ひまな			の だ す (ん)
	ひまではありません	→	ひまではない			
	ひまでした	→	ひまだった			
	ひまではありませんでした	→	ひまではなかった			
名 詞	病気です	→	病気な	の だ す (ん)		
	病気ではありません	→	病気ではない			
	病気でした	→	病気だった			
	病気ではありませんでした	→	病気ではなかった			

使用にあたって

効果的な使い方

この映画は、比較的ストーリーが楽しく、学習者は話の展開を楽しみながら、学習項目を学ぶことができる。その意味で、繰り返し見せても飽きずに見るので、適当な所で、停止させ、練習させることが可能である。実際の方法としては初めに全編を通して見せ、二度目に、適宜、説明・練習を入れながら見せる方法と、最初から、適当な箇所区切り、練習などを加えながら、最後まで見、その後、全編を通して見せる方法がある。

初級段階も、補助動詞の用法を学習するころから、しだいに複雑になってくる。この段階をうまく乗り越えることによって、それ以降の学習項目の理解が容易にもなり、豊かな表現力が付いていくともいえる。概念としては理解できても、実際にはなかなか運用できない「～である」「～ておく」「～てしまう」の学習項目は、映像を通して学習することが、非常に効果的である。そのためには、映像をフルに活用することが大切である。この映画は、せりふ部分にも多くの用例が出てくるが、それ以上に、画面に現れた行為・作用・状態を言語情報として表現させることが望ましい。その際、この巻の学習項目だけでなく、既習の学習項目も積極的にとり入れることはもちろんであろう。

学習者の能力によっては、ストーリーを要約させたり、「茶碗を割ってしまった」結末のあとのストーリーを考えさせることも、学習者の個性、国民性などが現れておもしろい。

シナリオに沿って

I	伊藤	①	おばさん、そうじですか。
	おばさん	②	あら、伊藤さん、お帰りなさい。
		③	たくさん買い物をしましたね。
		④	お客さんが来るんですか。
	伊藤	⑤	ええ。

■語彙・表現

そうじ：部屋などのごみやほこりを、はいたりふいたりして、きれいにすること。

「服・手をそうじする」とは言わない。→(大そうじ)

客：1、用事があって、他家を訪問する人。2、店などで物を買ったり、切符を買って、乗り物に乗ったり、映画などを見る人。

おかえりなさい：→(ただいま)

映像 ⇒ ほうき はく 落葉 買い物袋

■文法

①おばさん、そうじですか。(P.26参照)

会話を始めるときに用いられる表現で、相手が眼前でしている行為(そうじ)を話題にして呼びかける一種のあいさつと考えてよい。応答は直接の答えとなっていないことが多い。

④お客さんが来るんですか。(P.27参照)

伊藤のたくさんのお買い物やケーキの箱を根拠に、説明を求めている表現であるが、ここではあいさつ表現と考えてよい。したがって、返事も積極的にする必要はない。かりに、「おばさん」が客である「秋子」と面識があるなら、伊藤は積極的に「じつは、秋子さんが来るんです」と答えてもよいだろう。

■留意点

導入部なので、話の展開への興味を損なわないように、特に説明を加えなくてもよい。「おばさん」が落葉のそうじをしているところから、季節が秋であることがわかる。舞台は学生寮の庭であるが、さらに先の場面を見て、寮の構造、「おばさん」との関係を理解させることができる。

■生活・文化

おばさん：一般に初級段階では、血縁関係上の「おば」の用法が教えられられることが多いが、ここでは、学生寮の管理人の奥さんに対して使われている。この呼称は中年以上の親しい他人にも、虚構的親族関係として用いられる。

I	おばさん ⑥ お部屋のそうじはしてありますか。 伊 藤 ⑦ まだしてありません。 ⑧ これからしますよ。 おばさん ⑨ そう。
II	(せりふなし)

■語彙・表現

まだ：一定の段階・時期に達してないこと。否定語をともなう。→(もう)

これから：今から、現在より後。→(それから、そのあとで)

映像 ⇒ 冷蔵庫 みかん ハム チーズ ビール

■文法

⑥お部屋のそうじはしてありますか。

この映画の主要学習項目のひとつである。「そうじをする」行為が完了し、その結果が存続しているかを尋ねたのである。それに対する返事⑦は、その状態が「まだ」実現しないことを表している。もし、すでに「そうじ」が完了していたとすると、その返事は、「⑦'ええ、もうしてあります」となる。さらに、ここで注意したいのは、かりに問いが、「お部屋のそうじはしましたか」であった場合は、その肯定的答えは、「ええ、もうしました」で、否定的答えは「いいえ、まだしていません」となることである。(P.23参照)

■留意点

場面Iでの「～である」は、実際の行為が映像に現れないので、場面IIを活用して、「～である」を理解させるとよい。

場面IIにおいて、伊藤の買い物の内容が次々と、見ている者に明らかになる。しかし、画面からはわかりにくいので教授者が語彙を提示するとよい。そのうえで、積極的に発話させ、「～である」「～ておく」の練習をするとよい。

場面IIはせりふはないが、画面から、「お客が来るので、～ておきました」といえる。

■生活・文化

最近の学生は自室に小型の冷蔵庫を持つことが多い。

III	店員 ⑩	おまちどうさまでした。
		⑪ スプーンを4本、入れておきました。
	秋子 ⑫	ありがとう。
	店員 ⑬	どうもありがとうございました。
IV	大山 ⑭	おや、そうじをしていますね。
		⑮ だれか来るんですか。
	伊藤 ⑯	ええ、ちょっとお客が来るんです。
	大山 ⑰	へえー、だれが来るんです？
	伊藤 ⑱	秋子さんが来るんです。

■語彙・表現

おまちどうさまでした：→(おまたせしました)

おや：思いがけないときや疑問のあるときに思わず言う言葉。「あら」は女性語。

へえー：驚いたり、疑ったりする気持ちを表している語。

映像 ⇒ ケーキ 箱 包む 店員 払う

■文法

⑪スプーンを4本、入れておきました。

店員は、「客が食べるときに便利のように」という配慮から、「スプーンを四本、入れておいた」のである。

⑮だれか来るんですか。

伊藤の「そうじ」を根拠に説明を求めようとして「～んですか」を用いている。⑮に対する返事⑯にも「～んです」を用いたのは、相手を納得させようという気持ちが強く働いたからであろう。以下⑰⑱も同様である。

(P.27参照)

■留意点

場面Ⅲで、「お客さん」である女主人公が登場し、場面Ⅳで、その名が「秋子」であることも明らかになる。この点は学習者の想像力に任せるだけでよいだろう。場面Ⅳでの友人の大山の出現で、寮の部屋の構造がわかってくる。

■生活・文化

おみやげ：日本では、一般に他家を訪問する際、おみやげを持参する習慣がある。

何をおみやげとするかは、時と場合と相手との関係により、さまざまである。この場面では、「おみやげ」の理解の伏線とし、特に説明を加える必要はない。

IV	大 山 ⑱	秋子さんですか。
	伊 藤 ⑳	ほら、ビールが冷やしてあります。
		㉑ ハムもチーズも買ってあります。
		㉒ あとで呼びますよ。
	大 山 ㉓	じゃあ、あとで。
		㉔ 楽しみにしていますよ。

■語彙・表現

ほら：相手の注意をある事柄・事態に向けさせようとして口にする感動語。

冷やす：他動詞。何かを冷たくすること。自動詞は「冷える」。

あとで：今より後のあまり隔たらない時期。→(いずれ、そのうち、今に)

楽しみにする：やがてある事が実現することを心待ちにする。慣用表現。

映像 ⇒ 開ける 見せる のれん

■文法

⑳ビールが冷やしてあります。

場面IIでビールを冷やすために冷蔵庫に入れた。この場面でその行為の結果の状態が続いていることが示される。図式で示すなら、

「ビールを冷やす→ビールが冷やしてある→冷やしてあるビール」となる。

また、自動詞「冷える」を用いて、文型・ニュアンスの違いを示すとよい。

「ビールが冷える→ビールが冷えている→冷えているビール」

■留意点

大山の⑱のことばで、大山も秋子と知り合いであることがわかる。相手の言葉を確認する気持ちが働いて思わず言ったものである。イントネーションは下降調。

V	秋子	㉔	あっ……。
		㉕	すみません。
		㉖	今の電車で忘れ物をしてしまったんですが……。
	駅員	㉗	どんなものですか。
	秋子	㉘	ケーキの箱です。
	駅員	㉙	わかりました。
	㉚	すぐ連絡します。	

■ 語彙・表現

すみません：人に何か頼むとき、相手の注意を促すように用いられる。

忘れ物：どこかに忘れてきてしまった物。

すぐ：時間をおかないで。ただちに。他に距離が離れていない様子の意。

連絡する：情報を相手に知らせること。

映像 ⇒ 電車 走る 止まる のせる 降りる 気がつく

■ 文法

㉖今の電車で忘れ物をしてしまったんですが……。

主要学習項目のひとつの「～てしまう」の初出である。せりふのない部分の映像を通して、この場面での「～てしまった」は好ましからざる事態が発生した意味をもつことが理解される。このような「～てしまった」とともに用いられる副詞として「うっかり」を導入してもよいだろう。「～んです」は、自分の困った事態を相手（駅員）に説明しようという気持ちが現れている。

■ 留意点

この場面の冒頭のせりふのない部分は、「～てしまう」を導入するためのものである。秋子の行動を学習者に表現させるとよい。「困っています。」などの言葉を使いながら、不注意によって不都合な事態に陥ったことを理解させる。

■ 生活・文化

忘れ物：鉄道の車内や構内で忘れたときは、駅の遺失物係に届ける。一般の路上のときは交番に。どちらも本人の持ち物であることを確認してから返してくれるが、身元を確かめられることがある。

VI	伊 藤	③②	おばさん、じゃあ、これを借ります。
		③③	よろしいですか。
	おばさん	③④	どうぞ。
	伊 藤	③⑤	ほかのは、ここに置いておきます。
	おばさん	③⑥	はい。
		③⑦	伊藤さん、お部屋のそうじはしましたか。
	伊 藤	③⑧	ええ、もうしてしまいました。

■ 語彙・表現

借りる：他人の事物を一時的に使わせてもらうこと。→(貸す、返す)

よろしいですか：相手に許可を求める表現。「いいですか」のあらたまったもの。

ほかの：現在話題にしているもの以外のもの。

はい：相手の注意を喚起し、事物を提示する際の呼びかけ語。

映像 ⇒ 編む 糸 (お)盆 のせる 重ねる

■ 文法

③⑤ほかのは、ここに置いておきます。

「～ておく」は、場面Ⅲにも出てきたが、そこでは、事後の事態に備えてという意味があった。ここでは、「おいたままにする」という放置の意味が強いように思われるが、おばさんが片づけやすいように準備するという意味といえないこともない。

③③よろしいですか。

「～てもよろしいですか」の略。「これを借ります。よろしいですか」→「これを借りてもよろしいですか」

③⑧もうしてしまいました。

動作の完了を表している「～てしまう」。

■ 留意点

この場面で、場面Ⅰの「おばさん」がどんな人物なのか、見る者にわかってくる。

「おばさん」は学生たちの住む下宿、あるいは寮の管理を仕事としている人である。

VI	おばさん	③⑨	そうですか。
	伊藤	④⑩	じゃあ、これ、借ります。
VII	駅員	④⑪	ありました、ありました。
		④⑫	すぐ、こちらに届きますよ。
	秋子	④⑬	よかった。
		④⑭	ありがとうございました。

■ 語彙・表現

こちら：話し手がいる方向。またその場所。 →(あちら)

届く：送った品物が受取人のところに着くこと。ここでは、電車に置き忘れたケーキが本人のところにもどってくること。

映像 ⇒ 持つ お礼を言う

■ 文法

④⑩じゃあ、これ、借ります。

「これを借ります」とすべきところを「これ」といったのは、より会話らしい表現にしようとしたためである。

④⑪ありました、ありました。

事物の存在を今、確認したという発見のニュアンスを伴う「た」。期待していた事態の実現の時も使われる。「バスが来た」「ああ、わかった」など。

④⑬よかった。

事態が自分に好都合に展開したとき、思わず口から出る言葉。他者に向かってではなく自分自身に言ったため、普通体となっている。

■ 留意点

伊藤の④⑩「じゃあ、これ、借ります」は③⑨の繰り返しであるが、同じことを言って、おばさんとの対話を打ち切り、部屋を立ち去ろうとする気持ちの表れと考えられる。

④⑬の「よかった」は駅員に向かって言ったのではなく、秋子の自然な喜びの気持ちが思わず口に出たものであることに注意する。

VIII	鳥 井 ④⑤	へへへ。
	伊 藤 ④⑥	なーんだ、君か。
	鳥 井 ④⑦	そうじは、終わりましたか。
	伊 藤 ④⑧	ええ。
	鳥 井 ④⑨	ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。
	伊 藤 ⑤⑩	えっ、ええ、まあ。

■ 語彙・表現

へへへ：やや下品な笑い。

なーんだ：「なんだ」が強調されたもの。意外な事柄・事態にあって、あきれたり、がっかりしたとき、思わず口から出る言葉。「なんだ」には、「○○か。▽○○○ではないか。▽」が呼応することが多い。

君：男性が、親しい同輩や後輩を指していう代名詞。目上の人には用いない。

ほー：あることを見たり聞いたりして、感心したり、驚いたりしたときに言う。

えっ、ええ、まあ：相手の言葉に明確に応答できなかったり、したくない気持ちを表す反応。

映像 ⇒ 待つ ノック 開ける がっかりする

■ 文法

④⑨ ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。

Ⅳにおいて、伊藤は「部屋のそうじをしている」が、「そうじが終わり」今はその結果の状態が続いていることを示している。「ずいぶん」は「きれいに」にかかり、「きれいに」は副詞的用法として「してありますね」にかかっている。

■ 留意点

画面は、初めなかなか来ない秋子の到着を待ちかねている伊藤の姿が映る。そしてノックの音に勇んで戸を開けた伊藤の前に現れたのは、秋子ではなく、同じ寮に住む鳥井であった。鳥井の出現は、見ている者にとっても意外性のあることであり、伊藤の心の動きがわかりやすく楽しめる場面である。

VIII	鳥井 ⑤①	きょう、秋子さんが来るんでしょう。
	伊藤 ⑤②	知っているんですか。
	鳥井 ⑤③	さっき、聞きました。
		⑤④ ほーう、紅茶茶碗が用意してありますね。
	伊藤 ⑤⑤	ええ、おばさんから借りたんです。
	鳥井 ⑤⑥	そうですか。
	伊藤 ⑤⑦	ほら、ビールも冷やしてありますよ。
		⑤⑧ あとで来ませんか。

■ 語彙・表現

知る：見聞などによって他から知識を得ること。→(わかる)

さっき：今より少し前。さきほど。→(これから、今から)

用意する：ある事に備えて、それが十分に行われるように条件・環境を前もって
つくっておくこと。→(準備する)

映像 ⇒ 開ける 冷蔵庫

■ 文法

⑤①きょう、秋子さんが来るんでしょう。

この「～んでしょう」は、事前に得た知識を根拠に、相手に確かめるときに
用いられる。イントネーションは上昇する。

⑤④紅茶茶碗が用意してありますね。

秋子の訪問に備えて、「紅茶茶碗を用意した」状態が存続していることを表
している。

⑤⑤ええ、おばさんから借りたんです。

⑤④に対して説明しようとする気持ちを表す「～んです」。

⑤⑦ビールも冷やしてありますよ。

②⑩「ビールが冷やしてあります」参照。

⑤⑧あとで来ませんか。

「～ませんか」は人を誘うときの表現。

■ 留意点

鳥井の⑤①の言葉から、鳥井も秋子さんの友人であることがわかる。つまり秋子は、
登場する男子学生三人に共通の友達なのであろう。鳥井の言葉⑤③「さっき、
聞きました。」は、「だれに／だれから聞いたのか」学習者に質問し、理解を
確認してみるといいだろう。

VIII	鳥井 ⑤9	ぼく、今から出かけるんですよ。
	伊藤 ⑥0	残念だなー、出かけてしまうんですか。
	鳥井 ⑥1	ええ。
	⑥2	じゃあ、いってきます。
	⑥3	秋子さんによろしく。
伊藤 ⑥4	ええ。	
	⑥5	いってらっしゃい。

■語彙・表現

ぼく：男性が、親しい同輩や後輩を相手に、自分自身を指していう代名詞。あらたまった席、目上の人の前ではあまり用いられない。→(君、わたし)

残念：望みや願いがかなわず、心残りに思うこと。形容動詞。

出かける：自分のうちや会社など所属する所から、一時的に外に出ること。外出する。

いってきます：外出するとき、外出する人がそこに残る人に対していうあいさつ。「いってまいります」ともいう。↔(⑥5いってらっしゃい)

秋子さんによろしく：自分の好意ある気持ちを第三者に伝えてもらいたいときに用いる表現。→「よろしくお伝え下さい」

■文法

⑤9ぼく、今から出かけるんですよ。

秋子が来るのに残念ながら「出かける」ことへの感情的な強調を表す「～んですよ」。

⑥0残念だなー、出かけてしまうんですか。

「出かける」という鳥井の動作の実現に対する伊藤の残念な気持ちを表している。

■生活・文化

日常よく使われるあいさつである「いってきます」「いってらっしゃい」を、画面を通して、そこに残る側、そこから出ていく側を明らかにしながら学習させるとよい。また「ただいま」「お帰りなさい」もあわせて教えることもできる。

(②参照)

IX	(せりふなし)
X	秋子 ⑥⑥ こんにちは。
	伊藤 ⑥⑦ やあ、いらっしやい。
	⑥⑧ 遅かったですね。
	⑥⑨ さあ、どうぞ。
	秋子 ⑦⑩ 遅くなってしまって、ごめんなさい。
	⑦⑪ 電車にこれを忘れてしまったんです。

■語彙・表現

こんにちは：昼間、交わすあいさつ。毎日のように顔をあわす人や、目上にはあまり用いない。→(おはようございます。こんばんは。)

いらっしやい：客を迎えたときに歓迎の気持ちを表すあいさつ。「いらっしやいませ」はより丁寧である。

さあ、どうぞ：相手の行動を促す表現。

ごめんなさい：自分の非を認め、相手に謝る言葉。→(すみません)

映像 ⇒ 歩く 手に持つ 入る 座る

■文法

⑦⑩遅くなってしまって、ごめんなさい。

約束の時刻より遅く着いたことを相手に申し訳なく思う気持ちを表している。

この「～てしまう」は「してはいけないことをした」という意味が含まれている。「～て、ごめんなさい」の「～て」は原因・理由を表すと考えられる。

⑦⑪電車にこれを忘れてしまったんです。

この「～てしまう」は、不注意により「うっかり忘れた」という意味を表している。さらに「～んです」によって、「遅れた理由」を説明しようとする気持ちが強調されている。

■留意点

場面IXは、ケーキが無事にもどり、寮へと向かう秋子の姿を提示している。

■生活・文化

ふつうならば、約束の時間に遅れた場合、あるいは遅れることが予想される場合には、先方に電話などで何とか知らせようとするだろう。この映画の秋子のような処し方はあまり模範となるものではない。秋子はケーキを忘れて、後で紅茶茶碗を割ってしまったたりするそそっかしい女性として描かれている。

X	秋子 ⑦②	はい、おみやげ。
		⑦③ ケーキです。
	伊藤 ⑦④	えっ、ぼくもケーキを買っておいたんですよ。
		⑦⑤ ほら。
	秋子 ⑦⑥	あらー、ほんとう。
	伊藤 ⑦⑦	まあ、友達を呼んで、みんなで食べましょうか。
	秋子 ⑦⑧	そうですね。

■語彙・表現

おみやげ：1、旅先・外出先などで買い、家や会社に持って帰るその土地の産物など。2、他家を訪問するときに持っていく贈り物。

ほんとう：一種の感動語。確かにそのとおりでということに驚きをもって言うときに使われる。

まあ：十分ではないがともかく。好ましからぬ事態ではあるが、なんとかなるだろうという気持ちを表し、相手の気持ちの負担を軽くしようとしている。

映像 ⇒ 差し出す のせる とる 並べる 同じ 包み紙

■文法

⑦④えっ、僕もケーキを買っておいたんですよ。

「秋子が来るので、そのために」「ケーキを買って」準備をしていたことを表している。「～んですよ」は、秋子がおみやげとしてケーキを持参したが、自分も同じように「買っておいた」ことを、秋子に訴えようという気持ちを強く表したものである。

■留意点

伊藤は、⑦②で大山を「後で呼びますよ」と言い、⑦⑧で鳥井に「後で来ませんか」と言っている。ケーキは二つになってしまったが、大山も鳥井も秋子の知っている友人であり、みんなを呼んで、ケーキを食べ、紅茶を飲もう、ということになる。

■生活・文化

ケーキ：戦後、和菓子よりもケーキなど洋菓子を好む傾向が強くなってきた。対象は若い女性を中心に、お年寄りや男性にも広がっており、種類も実に多様である。最近では、以前より甘みをおさえたケーキや野菜を材料にしたものも作られ、ケーキにも健康食品・自然食品ブームが反映しているといえる。

X	伊藤 ⑦9	じゃ、紅茶を入れますよ。
		⑧0 さあ、どうぞ。
	秋子 ⑧1	ずいぶん、きれいにしてありますね。
	伊藤 ⑧2	さっき、そうじをしたんですよ。
	秋子 ⑧3	あら、きれいな紅茶茶碗ですね。
		⑧4 わたし、洗ってきます。
	伊藤 ⑧5	あっ、すみません。
	秋子 ⑧6	いいえ。

■ 語彙・表現

紅茶を入れる：「お茶(コーヒーなど)を入れる」は、「カップなどの容器にお茶を注ぐ」という狭い意味のほか、この場面のように、「準備から始めて、飲み物をつくる」広い意味を持っている。(第11巻、③7参照)

洗う：茶碗を洗う。紅茶を入れるために茶碗を水で洗い、よごれを落とす。

すみません：相手の好意に対してすまなく思い、お礼を言う気持ち。②6参照

映像 ⇒ 見回す 照れる 気がつく

■ 文法

⑧1きれいにしてありますね。

伊藤が部屋のそうじをし、部屋を「きれいにした」結果の状態が続いている。自動詞の表現「部屋がきれいになる」→「部屋がきれいになっている」と比べると、「きれいにしてある」は、人(伊藤)による行為の結果が強く表れているといえる。

⑧4わたし、洗ってきます。

「洗ってきます」は、ある所へ行って「洗い」そして「ここへもどる」ことを意味している。(第14巻参照)

■ 留意点

⑧3と⑧4の間で、秋子はテーブルの上に並べてある紅茶茶碗のひとつを取り上げ、茶碗の中を見て、思わず笑ってしまう。このとき、なぜ秋子は笑い、「茶碗を洗ってくる」ことにしたのか画面からはよくわからない学習者もいる。そんな場合は、伊藤は「紅茶茶碗を借りてはおいた」が、それを「洗っておく」のにまで気が付かなかったことを示唆するといいただろう。

XI	秋子 ⑧7	あっ。
XII	秋子 ⑧8	すみません。
		⑧9 これ、割ってしまったんです。
	伊藤 ⑨0	えっ、割ってしまった……。
		⑨1 あっ、困ったな……。
	秋子 ⑨2	すみません。

■語彙・表現

すみません：謝罪の言葉。(②6⑧5参照)

割る：固まっている物を落としたり、たたいたりしてこわすこと。↔(割れる)

困る：どうしたらよいかわからないため苦しむ。(弱る)

困った(な)：どうしてよいかわからなくなったときに口から出る言葉。↔④9「よかった」

映像 ⇒ 洗う 落とす 破片 拾う 集める 驚く 拝む

■文法

⑧9これ、割ってしまったんです。

予期しない不都合な事態が起きたという意の「割ってしまった」。自動詞を用いていると、「これ、割れてしまったんです」となるが、後者は、客観的な立場からの発言に聞こえ、自らの行為によるものではないという責任のがれの感がある。⑨0の伊藤の言葉は、予想外の出来事に驚いたため、思わずおうむ返しに言ってしまった言葉である。

■留意点

場面XIは、セリフはないが、画面から「～てしまう」の文型を使って練習をすることができる。秋子がうっかり茶碗を割ってしまう事態の発生、その後の秋子と伊藤の困惑した表情は、学習者に臨場感を与え、たいへん楽しめる場面である。可能ならば、これに続く場면을学習者に考えさせ、応用練習をするとよいだろう。

■生活・文化

共同炊事場：この映画の舞台となっている寮や、比較的家賃の安いアパートなどでは、炊事場や洗い場が個室にはなく、廊下の一部などに共同に使うものとして設けられていることが多い。このような場合、トイレももちろん共同である。風呂・シャワーは共同かあるいは設けられていない場合もある。

第 13 卷

おみまいに
いきませんか

— 依頼・勧誘の表現 —

目的・構成

1 目的

この映画は、依頼、勧誘、提案の言い方を中心に許可、禁止などの言い方を含めた要求表現の用法の理解を目的としているものである。

2 構成

交通事故で入院した友人を見舞う男女の行動を、その友人の母とのやりとりや友人と看護婦との会話を交じえながら描く。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ⑦	電話口 (1)	一郎、春子の家に電話。	～てください	
	⑧ ⑪ ⑫	電話口 (2)	一郎、春子に田中の交通事故のことを伝え、見舞いに誘う。	～てください ～ませんか、～ましょう	
II	⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	花屋	二人、花屋の店員と相談しながら見舞いの花を選ぶ。	～ませんか、～ましょう(か) ください、～てください	
III	⑳ ㉑	タクシー	タクシーに乗り、病院へ。	～てください	
IV	㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟	病室 (1)	一郎、春子、入院中の田中を見舞い、田中と付き添いの田中の母にあいさつ。	～てください	
	㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	病室 (2)	看護婦、検温のため入ってくる。田中に安静の指示を与え退室。	～て、～てください ～もいいですか) ～はいけません ～なければいけません ～なくてはいけません	
	㊿ ㉑ ㉒	病室 (3)	田中の母、茶菓を持ってくる。	～くださいませんか	
	㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟	病室 (4)	一郎と春子、田中を励まし、帰る。	～てください ～ないでください	

学習項目

1 主要学習項目

① 依頼表現

この映画では、次のような依頼表現が取り上げられている。

- (1) ～をください。③③⑨
- (2) ～てください。⑦①①④②④⑥⑤⑤⑥⑥①⑦⑤⑨⑨②
- (3) ～て。⑥③⑦④
- (4) ～てくださいませんか。⑦⑨⑧③
- (5) ～ないてください。⑨①

このうち(1)は「名詞+を+ください」の形で、事物の授受を依頼する用法であり、(2)~(4)は「動詞「～て」形+ください／「～て」形のまま／「～て」形+くださいませんか」の形で動作を行うことを依頼する用法である。この中で、(4)の「～てくださいませんか」は「～てください」より丁寧度が高く、(3)の言い方は「～てください」よりくだけた言い方である。(5)は「動詞+ないで+ください」の形で相手に動作を行わないことを依頼するものである。

(2)~(4)に用いられる動詞は、人間の意志によって左右できる事柄を表す動詞、(勉強を)する、作る、話す、読む、歩く、会う、来る、居る、(医者に)なる、

などであり、人間の意志によって左右できない事柄を表す動詞は、(音が)する、大きすぎる、思われる、読める、要る、痛む、そびえる、光る、違う、見える、ある、(朝に)なる、

などには一般に付けにくい。「早く朝になってください」という言い方もあるが、この場合は祈願の意味になる。

依頼表現のパターンはこの巻に出ているもの以外にもいろいろあるが、依頼か命令か、丁寧であるかどうかを軸にして、図示し、次にその一部をこの巻に出ているものといっしょにして提出する。

	「強制」	←→	「任意」
く だ け て い る	飲みなさい 飲んでちょうだい 飲め 飲んで		飲んでくれない(か) 飲まない(か)
↑ ↓			飲んでください 飲んでくれませんか 飲みませんか
あ ら た ま っ て い る			お飲みください 飲んでくださいませんか お飲みになりませんか

ここで、「強制」/「任意」「くだけている」/「あらたまっている」のそれぞれの選択の基準となるのは何かということが問題である。

次のような場合には「強制」の表現を選ぶことができる。

(I) 話し手自身だけのためではなく公の利益、または、聞き手の利益になることを要求する場合で、しかもその要求が次の理由で、ある程度予期できる場合。

- i) 社会的立場の上の者が下の者に要求を行うとき（たとえば上司→部下、教師→生徒、客→店員など）。
- ii) 要求の内容が、職務の一部であるために、社会的立場が無視されるとき（たとえば銀行の窓口で客に金額など書かせる場合など）。
- iii) 指示を期待している聞き手に対して指示を与えるとき（たとえば道を尋ねられて答える場合など）。

(II) 勇気づけたり忠告したりするとき、聞き手に対する「温かさ」を示す必要がある場合。

そして、次のような場合に、くだけた表現を使ってもよい。

- (I) 家族や、よく知っている人が聞き手の場合。
- (II) 子どもや社会的に下の者が聞き手の場合。

② 勧誘表現「～ませんか」「～ましょうか」「～ましょう」

(a) 飲みませんか

は、聞き手にすすめる表現であるが、場面によっては、

(a) この辺で休んで、何か飲みませんか

のように、話し手と聞き手がいっしょに「飲む」ことを提案し、それに対する聞き手の意見を求める表現でもある。

(b) 飲みましょうか

(c) 飲みましょう

も、それぞれ同様に、すすめる場合と提案する場合の両方に用いられる。(ただし、(b)(c)がすすめる表現として使われるのは、聞き手が子供であるなど、かなり特殊な場合に限られる。たとえば、「いい子だから薬を飲みましょうね。」など。)

(a)(b)(c)を比べると、ここでも聞き手に賛同を強制する度合いによってこれら三つが使い分けられることがわかる。(a)(b)はいずれも疑問文の形で、(c)より「任意」である。(a)と(b)では、(a)の方がより「任意」の度合いが高い。提案することを聞き手が予期していなければいけないほど、話し手は「任意」の表現を選ぶ。逆に聞き手の態度や、それまでの会話から聞き手もその行為を望んでいることが明らかな場合、または聞き手を励ましたり勇気づけたりする場合には「強制」の表現を用いる。たとえばあまり親しくない相手、つまりこちらが提案することを予期して

いない相手に、突然「いっしょに映画を見ましょう」と言っでは失礼で、そういう場合には「見ませんか」を使う。そしてこの提案に対して「見ましょう」と答えれば積極的に賛同することになり、「見ましょうか」と言えばそれほど積極的でない。相談の段階ではお互いの了解にもとづいて新しい提案がなされるので、提案より「強制」的な表現が使われることになる。「いつ」「どこで」のような疑問の語とともに使えるのは(b)の形のみである。

また(a)が使われる場面としては、

(a) (私は今お茶を飲んでいますが)あなたも飲みませんか。

のように話し手がすでに行っている行為「飲む」ことに、聞き手が加わるよう誘う場合も考えられる。このようなときは、聞き手は「ええ、飲みましょう」とは言わずに「ええ、飲みます/いただきます」と答えるのがふつうであろう。

初級の段階では、教授者は、「～ませんか」「～ましょう」を対応する表現として学習者に提示し、機械的に練習をしがちだが、状況によっては、必ずしもそうではないことに注意する必要がある。「～ませんか」で提案された行為・動作が、話し手・聞き手にとって、これからいっしょに行うものであるのか、それとも、聞き手が話し手の行為に参加するものなのか、それを考えさせる場面作りが必要だろう。(a)は要求表現とは無関係な単なる否定疑問としても使われる。

(d) 全然外食はしませんか。

要求表現かそうでないかは形の上からは区別できず、文脈によってのみ区別できる。また(b)は話し手自身がある行為をすべきかどうか聞き手に尋ねる場面でも用いられる。この意味で用いられる場合は、

(e) 何かお手伝いしましょうか

のように謙譲語を含むか、

(f) わたしが行きましょうか

のように「わたしが/わたしどもが」などを含むことが多い。

なお、勧誘表現については第9巻の学習項目の解説も参照のこと。

2 その他の学習項目

① 許可・禁止・必要・義務の表現

許可・禁止・必要・義務の表現として以下のものをこの映画で導入している。

- (1) ～てもいいです (許可・許容) ⑥⑥
- (2) ～てはいけません (不許可・禁止) ⑥⑦
- (3) ～なくてはいいけません (必要・義務) ⑦⑧
- (4) ～なければいいけません (必要・義務) ⑦⑩

許可・許容を表す基本的な形式としては「～てもいい」「～てもかまわない」の言い方がある。この言い方は、「動詞(連用形)+接続助詞「ても」+「いい(かまわない)」の形で作られるが、形容詞、形容動詞、助動詞の連用形にも接続する。詳しくは、第21巻で主要学習項目として取り上げる。

許可を求める言い方に対しては肯定の場合、「はい、～てもいいです」「はい、どうぞ」「～てください」など状況によっていろいろな答え方がある。否定の場合には、さらに複雑で、種々の答え方があり、禁止の表現となってしまう「～てはいけません」では答えられないことも多い。この場合、「～ないてください」とか「～ないようにしてください」とか、「すみません、～」とかと答えることになる。

必要・義務を表す「～なくてはいいけない」「～なければいいけない」は、動詞、およびある種の助動詞の「～(ない)」の形、または形容詞、形容動詞の連用形につく。これは、ある行為を強制する命令表現の一種で、行為者が話し手自身であるときは義務の表現となり、行為者が聞き手である場合は、強制表現となる。

② 「～てみる」

試行を表す「～てみる」の言い方は、次の二例がある。

②④店の人に相談してみましようか。

③⑦それじゃあ、あの黄色いお花も入れてみましようか。

「～てみる」は、ふつう意志動詞に付けられる。②④は、花選びを自分たちだけであるのではなく、店の人の考えも取り入れることにして、③⑦は、「黄色い花」も入れることにしてということで、ここでは両者とも「～ましようか」との組み合わせで用いられている。「～てみる」については、第17巻の解説を参照のこと。

使用にあたって

1 効果的な使い方

学習項目のところでも述べたが、この映画の主要学習項目である依頼表現、勧誘表現は、対遇表現と同じように、(1)場面、人間関係によって使いわけがなされなければならない、また、(2)個人の性格によって使用が大きく左右される。(1)に関しては、映画の各場面で各表現が使われている理由を理解させ、場面や人物間の関係を変えて、会話をやらせたりして、場面と表現の対応の定着をはかるとよいだろう。(2)に関しては、どんな表現がどんな印象を与えるかという情報を与えるべきだろう。初級の学習者用に選んだ、限られた表現だけを使っているところから、不自然な部分もあると思われるが、映画のすべての場面を模範的な会話を提供するものとするのではなく、個性の現れの例として客観的に扱うことが必要なのである。

主要学習項目のほかにも、電話でのきまり表現、店での注文のし方、タクシーの乗り方といった実用学習項目も多いが、相談の表現に関係深いと思われる、お見舞いに行くときの待ち合わせの相談や容体を尋ねたりする場面が割愛されていることは残念である。応用として学習者にやらせてみるとよいだろう。

2 練習帳について

問⑩、「形容詞+の」だけでなく、「名詞+の」も応用として出している。

問⑫、必ずしも正答が一つとは限らない。選んだものによって出る効果の違いを確認させるための問題。問⑬、⑭、⑮をやってからさせる方がよいだろう。

問⑮、主要学習項目、その他の学習項目に関係のある部分を聴きとらせることが目的である。ストーリーの展開、音声面に関する留意はしていない。

シナリオに沿って

I	一郎	①	あっ、もしもし、石田さんのお宅ですか。
	春子の母	②	はい、石田です。
	一郎	③	あっ、お母さんですね。
		④	ぼく、木村です。
		⑤	春子さん、いますか。
	春子の母	⑥	ええ、いますよ。
		⑦	ちょっと待ってください。

■語彙・表現

もしもし：電話で相手に呼びかけるときのことば。電話だけでなく、街頭や店などで他人に呼びかけるときにも用いられる。

お宅：「家」のあらたまった言い方。「あなた」や「あなたの会社」という意味でも用いられる。

お母さん：ここでは春子の母をさす。

映像 ⇒ 電話 受話器 ダイヤル カレンダー

■文法

④ぼく、木村です。 ⑤春子さん、いますか。

くだけた会話では、「ぼくは木村です。春子さんはいますか。」の「は」が省略される。

⑦待ってください。

「～てください」による要求表現。「待つ」ことは、一郎が春子の母のためにすることではなく、春子と話すためにしなければならないこと。③④からわかるように一郎と母はかなり親しいと思われる。⑦は、丁寧な形なら「お待ちください」となる。その場合「ちょっと」もあらたまった「少々」となることが多い。

■留意点

進んだ段階では、一郎と春子の母との社会的関係がどのようなものであるかをしっかり把握させることが必要である。これを誤解すると、表現の選択と人間関係が正しくとらえられなくなる。③で一郎が母の声を聞きわけ、「お母さん」という語を使い、「ぼく」という語を使っていることから親しさがわかる。

■生活・文化

ここでは電話をかけた一郎が先に話し始めているが、電話をとった方が先に「はい」または「もしもし」と言って自分の姓を名乗るのがふつうである。(第28巻P.47参照)

I	春子 ⑧	もしもし、木村さん、こんにちは。
	一郎 ⑨	あっ、春子さん、実は、田中君が交通事故で ——。
	春子 ⑩	えっ、いつなんですか。
	一郎 ⑪	きのうなんです。
	春子 ⑫	それで、ひどいけがなんですか。
	一郎 ⑬	幸い、たいしたけがではありません。
	春子 ⑭	ああ、よかった。

■語彙・表現

実は：言い訳をする場合や、言いにくいことを言う場合、恐縮していることを表すために、また、聞き手に強い衝撃を与えないようにするために用いる。さらに、会話の中で、これから本論だということを示す場合にも用いられる。

交通事故：陸上の乗り物に関連する事故。

たいした：1、程度が甚だしくて驚いたり感心したりするほどだ。2、否定文では、驚くほどのことはない、ふつうの程度という意味。連用修飾語では「たいして」となる。

それで：相手の話を受けて、話を展開していく言い方。

幸い：これから言うことはいいことだと思うが、と前置きする言い方。

よかった：ほっとした気持ちを表す。思わず出た言葉で自分に言っている。

映像 ⇒ 驚く 安心する

■文法

⑨田中君が交通事故で ——。

原因、理由を表す「で」。

⑩いつなんですか。 ⑪きのうなんです。 ⑫ひどいけがなんですか。

「～のです」。(代)名詞を強調して用いる場合は、「～なのです」になる。(第12巻P.27参照)

■留意点

できれば、⑨の情報が春子にショックを与えること、それで一郎が「実は」を使ったこと、一郎が⑨を言い終える前に春子が⑩を始めていること、⑭でほっとしたことを確認するといった、談話の流れに注目したい。一郎と春子の関係を把握させることは前ページと同様に重要。

I	一 郎 ⑮	でも、救急車で辰之川病院に入院しました。
	春 子 ⑯	えっ、もう一度病院の名前を教えてください。
	一 郎 ⑰	辰之川病院です。
	春 子 ⑱	それで、木村さん、お見舞いに行きましたか。
	一 郎 ⑲	いいえ、あしたの午後行きます。
		⑳ 春子さんもいっしょにお見舞いに行きませんか。
	春 子 ㉑	ええ、いっしょに行きましょう。

■ 語彙・表現

救急車：けが人や病人を病院へ運ぶ車。

入院：病気やけがの治療、あるいは検査のためにある期間病院に入ること。→(通院、退院)

お見舞い：一般には病人やけがをした人を気づかって思いやりを表すことだが、火事や災害にあった人に対する場合も使う。相手を訪ねるとは限らず、手紙や電話を使うこともある。「見舞う」という動詞もあるが上記の意味では現在ほとんど使われない。「お見舞いに行く」は「買い物に行く」と同様「名詞＋に＋行く」の形。

それで：入院の話聞いて、そこからお見舞いのことへと話を発展させる気持ちを表す。

■ 文法

⑮救急車で辰之川病院に入院しました。

この「で」は手段を表す。

⑯もう一度病院の名前を教えてください。

春子が聞きとれなかった名前を自分のために繰り返してくれるように「～てください」と頼んでいる。

⑳行きませんか。 ㉑行きましょう。

⑳は提案であり、㉑はそれに対する積極的な賛同である。

■ 留意点

ひとつおりの事態の説明があって、⑳の発話で提案が行われていること、㉑で強い賛意を表していること、これは会話の流れの中で提案とそれに対する賛同の、最も単純で基本的なやりとりの具体的な例である。

■ 生活・文化

実際の電話なら、このあと待ち合わせの場所や時間を打ち合わせる会話が続くであろう。また、「お見舞いをする」と言えば何か品物を贈ることを意味することが多い。ここでもその品物について話し合うことになるかもしれない。

II	春子 ㉒	どのお花にしましょうか。
	一郎 ㉓	そうですねー。
		㉔ 店の人に相談してみましょうか。
	春子 ㉕	ええ、そうしましょう。
	春子 ㉖	すみません。
	店員 ㉗	いらっしゃいませ。
	春子 ㉘	お見舞いには、どんなお花がいいかしら。
	店員 ㉙	そうですね。
		㉚ こちらのお花なんか、いかがですか。

■ 語彙・表現

店の人：話しことばで店員のことを言う。→医者(お医者さん)、運転手(運転手さん)

相談：1.自分(たち)がこれからすることについて相手の意見をきく。2.自分(たち)と相手がこれからいっしょにすることについて話し合う。ここでは1。

いかがですか：相手の意見を尋ね、場合によっては間接的に何かをすすめるあらたまった表現。くだけた場面では「どうですか」。

映像 ⇒ 花屋 植木(鉢)

■ 文法

㉒どのお花にしましょうか。 ㉔相談してみましょうか。

どちらも「～ましょうか」を用いた相談の言い方である。㉒の「～にする」は、意志決定の言い方。

㉘お見舞いには、どんなお花がいいかしら。

「いいかしら」はこの場合、相手の意見を求めるくだけた表現。客の年齢、あるいは個人差で「でしょうか」を使うことも十分考えられる。男性の場合は「かな」を用いる。㉚参照。

㉚こちらのお花なんか、いかがですか。

相談を求められた店員が、控え目に提案をしている。「なんか」は、提案する際に、それが絶対のものでなく、変更や追加の余地があることを示している。あらたまった場面では「など」となる。

■ 留意点

二人が花屋にいるのはお見舞いの花を買うためである。店員に相談する内容は何か、またどうして相談するのかなど場面の内容を把握させる。

■ 生活・文化

お見舞いの品物として花は最も一般的だが、そのほかに果物、お菓子、本などもよい。病状や相手との関係を考える必要があることは言うまでもない。

II	春子 ③① どれがいいでしょうか。
	一郎 ③② この赤いのと白いのにしませんか。
	春子 ③③ じゃあ、この赤いのを4本と、白いのを3本、ください。
	店員 ③④ これでいかがですか。
	一郎 ③⑤ そうですね。
	③⑥ ちょっと少ないかな。
	春子 ③⑦ それじゃあ、あの黄色いお花も入れてみましようか。
	一郎 ③⑧ そうですね。
	③⑨ あの花も6本ください。
	店員 ④⑩ はい。

■ 語彙・表現

映像 ⇒ カーネーション ストック 選ぶ フリージア

■ 文法

③②この赤いのと白いのにしませんか。

この「～ませんか」は、「任意」の提案。③②の提案内容が最終結果に結びつくこと、また妥当だという根拠がないことから「任意」の形をとったものと思われる。「～にする」は意志決定の言い方。

③③じゃあ、……ください。

本来なら③②に対する応答があるはずだが、「じゃあ」で受けている。客が店員にものを要求する場面なので「ください」となる。

③③赤いのを4本

「赤い花」のこと。「4本」という数量詞の語順に注意。③⑨、④①参照。

③④これでいかがですか。

この「で」は、限度・範囲・範疇(ちゅう)を表す。

③⑤そうですねー。 ③⑧そうですね。

③⑤は思案中であることを、③⑧は同意を表す。

③⑥ちょっと少ないかな。

「かな」は独白的に疑問を投げかける言い方。女性の場合は「かしら」をよく使う。

③⑦それじゃあ、……みましようか。

③⑥を認めそれにもとづいて新しい提案をする。

■ 留意点

③⑤の機能とイントネーションが③⑧とは異なることをはっきりさせる。

■ 生活・文化

赤と白は縁起のよい組み合わせであり、お見舞いにふさわしい。

II	店員	④①	黄色いのも6本、入れておきます。
	一郎	④②	ええ、そうしてください。
	店員	④③	どうですか。
	春子	④④	とてもきれいですね。
III	一郎	④⑤	すみません。
		④⑥	辰之川病院まで行ってください。
IV	田中の母	④⑦	はい。
		④⑧	あら、一郎さん、春子さん。
	二人	④⑨	こんにちは。
	田中の母	⑤⑩	さあ、どうぞ。
	二人	⑤⑪	はい。

■ 語彙・表現

あら：驚いたときに女性が使う。ここでは喜びの意味をこめて使っている。

どうぞ：ここでは「入ってください」「お入りください」の意味。

映像 ⇒ タクシー 運転手 自動ドア 病室 ノック きもの かつぼう着

■ 文法

④①入れておきます。

「～ておく」は、あらかじめある目的に対して準備しておく言い方。(第12巻 P.24参照)

④②そうしてください。

④①の店員のことを「そう」で受け、確認している。

④④とてもきれいですね。

④③で感想を求められたのに答え、「ね」で一郎に同意を求める。それに対し一郎は表情で同意している。

④⑥辰之川病院まで行ってください。

③③と同様、客が運転手にその職務に関することを指示するので、「強制」の表現でかまわない。「辰之川病院まで」、「辰之川病院までお願いします」もよく使われる形。

■ 留意点

田中の母は二人にとって友人の母という間接的な関係でしかも年齢にもへだたりがあることに注意。

■ 生活・文化

日本人がドアをノックする場合、ほとんどの人が二回たたく。映画でも一郎は2回たたいている。⑤⑪で「お邪魔します」「失礼します」と言うことも可能。病室でなくて、相手の家や事務所に入る場合には、これを使うことが多いだろう。

IV	春子	⑤②	こんにちは。
	田中	⑤③	やあ。
	一郎	⑤④	やあ。
	田中	⑤⑤	お母さん、ちょっと起こしてください。
	春子	⑤⑥	どうぞ寝ていてください。
	田中	⑤⑦	ええ、もう大丈夫です。
	田中の母	⑤⑧	ちょっと失礼します。
	春子	⑤⑨	これ、お見舞いの……。
	田中	⑥⑩	どうもありがとう。
		⑥⑪	すみませんが、その台の上に置いてください。
		⑥⑫	あっ、その本は、ベッドの上に置いてください。

■語彙・表現

やあ：親しい間柄で男性が使うあいさつ。「こんにちは」に相当。

起こす：1、眠りからさます。2、横になっている状態から立ち上がらせる。

台：物や人を高い位置に置くために作ってあるもの。

映像 ⇒ カーテン 水さし 花瓶 個室 出る

■文法

⑤⑤ ちょっと起こしてください。 ⑤⑥ どうぞ寝ていてください。

⑤⑤の「起こしてください」は、病気ときは人に「強制」してもいいという考えがあるからかもしれない。⑤⑥は相手を気づかっただけの発言なので「強制」がふさわしい。「寝てください」が起きている人に「寝る」ことを要求するのに対し、「寝ていてください」は寝ている人にその状態を続けること、あるいは、起きている人に「寝る」行為をして、そのあとその状態を続けることを要求する。ここは前者の場合。

■留意点

⑤⑨は、「これ、お見舞いの花です。」と最後まで言うと恩着せがましく感じる。依頼・勧誘・申し出や、自分の意見、相手に対する反論を述べるときなど、言いさしになる。

田中の母は見舞いに来てくれた二人に茶菓子を持ってもどってくるため部屋を出た。

■生活・文化

入院患者に家族が付き添うのは、患者の病状、病院の体制、個室か大部屋か、などによって違うが、ふつう一定の範囲内に限られている。同様に、お見舞いにも制限があるのがふつうで、病院によって面会時間が決められている。

IV	看護婦	⑥3	はい、体温を計って。
		⑥4	気分は、どうですか。
	田中	⑥5	とてもいいです。
		⑥6	もう歩いてもいいですか。
	看護婦	⑥7	いいえ、まだ歩いてはいけません。
		⑥8	あっ、薬は飲みましたか。

■ 語彙・表現

体温：からだの温度。異常があつて高くなつた体温を「熱」という。

気分：ある時の心や体の状態。

映像 ⇒ 看護婦 体温計 白衣 コップ

■ 文法

⑥3はい、体温を計って。

「注意」をひくための「はい」。ここの「計ってください」は「強制」の表現意図を持っているが、看護婦と患者の間ではそれを柔らげるために「計って」となることがある。

⑥4気分はどうですか。

この表現は病気やけがなど特殊な状態にあることがわかっている相手に対してのみ使う。

⑥6もう歩いてもいいですか。

前は許可がなかったが、今は状態が変化して許可がもらえるかと尋ねているのである。

⑥7まだ歩いてはいけません。

状態は前と同じであると禁止する。看護婦が患者に対してその職務の範囲内の禁止を行う場面なので「～てはいけません」が使える。「ては」に卓立があるのは「復調してきているのは認めるが、歩いてよいところまではいっていない」という含み。

IV	田中	⑥9	あっ、いけない。
	看護婦	⑦0	薬は、必ず飲まなければいけませんよ。
	田中	⑦1	はい。
	看護婦	⑦2	はい。
		⑦3	はい。
		⑦4	体温計を見せて。
		⑦5	あっ、気をつけてください。
	田中	⑦6	すみません。
	看護婦	⑦7	はい。
		⑦8	まだ寝ていなくてはいけませんよ。

■ 語彙・表現

いけない：失敗に気づいたときに発する言葉。

必ず：それ以外の可能性がないことを表す。要求表現の中では「強制」の表現だけが共起する。

映像 ⇒ 忘れる わたす 落とす ふる

■ 文法

⑦0飲まなければいけませんよ。

義務を強制する根拠は⑥7と同様、看護婦としての職業的権限で言っている。

⑦4見せて。

「～て」形による命令の言い方。⑥3参照。

⑦5あっ、気をつけてください。

体温計をこわさないように気をつけるのはほぼ患者の義務であるから比較的「強制」の度合いの強い表現となっている。

⑦8まだ寝ていなくてはいけませんよ。

「寝ている」に禁止の「～なくてはいけません」のついた言い方。⑥6参照。

■ 留意点

⑥7で歩行禁止した上に⑦8でもう一度念を押しているのは検温の結果がよほど思わしくなかったのだろう。

■ 生活・文化

医者や看護婦に対して患者、その家族、お見舞いに来た人は一般に敬意を表す態度をとる。ここでも看護婦が退室するとき一郎は組んでいた腕をほどいて、春子とともに軽く会釈している。

IV	田中の母	⑦9	一郎さん、その灰皿を下に置いてくださいますか。
	一 郎	⑧0	はい。
	田中の母	⑧1	はい。
		⑧2	はい。
		⑧3	春子さん、すみませんが、お砂糖入れを取ってくださいませんか。
	春 子	⑧4	はい。
	田中の母	⑧5	どうぞ。
一 郎	⑧6	どうも。	
春 子	⑧7	すみません。	

■ 語彙・表現

(お)砂糖入れ：砂糖を入れる容器。

取る：ここでは必要としている人に手渡すという意味。

はい：⑧0の「はい」は、⑦9に対する応答。⑧1⑧2は物を手渡すときの「はい」。

どうぞ：ここでは、「食べる」ことをすすめる。

どうも・すみません：いずれも簡単なお礼の言葉。

映像 → カップ スプーン ケーキ 紅茶 お盆 (お)皿

■ 文法

⑦9置いてくださいますか。 ⑧3取ってくださいませんか。

「～てくださいませんか」と「任意」で、かつ、あらたまった形をとっているのは相手が年下ではあるがそれほど親しくないことと、田中の母自身が年輩の婦人であることによる。

■ 留意点

⑦9⑧3は田中の母が遠慮がちになるあまり聞きとりにくいほどになっている。年輩の婦人が一般にいていねいであらたまったことばを使うものだということに注意。

■ 生活・文化

一郎、春子は、紅茶とケーキをどちらかというとき当然のように受け取っているが、見舞いに来た客に茶菓のもてなしをするのは必ずしも一般的とは言えないだろう。そのかわり全快してからお見舞いに来てくれた人に「快気祝い」の品物を贈ることは広く行われている。

IV	一 郎	⑧⑧	そろそろ、失礼します。
	田 中	⑧⑨	そうですか。
	一 郎	⑧⑩	早くよくなってください。
	田 中	⑧⑪	ええ、あまり心配しないでください。
	春 子	⑧⑫	早く、元気になってください。
	田 中	⑧⑬	ええ。
	田中の母	⑧⑭	きょうは、どうもありがとうございました。
	田 中	⑧⑮	きょうは、ありがとう。
	二 人	⑧⑯	おだいじに。
	田中の母	⑧⑰	じゃ、失礼します。

■ 語彙・表現

そろそろ：まもなく何かが行われるべきだという気持ちをえんきよくに表す。

おだいじに：病人、けが人、またはその家族などに、別れる際に言う言葉。健康な人に対しては使わない。

映像 ⇒ 帰る おじぎをする

■ 文法

⑧⑧そろそろ、失礼します。

辞去することを告げるときのきまったあいさつ。「そろそろ」は唐突さをなくす機能がある。

⑧⑩早くよくなってください。 ⑧⑫元気になってください。

相手への暖かい思いやりを表すために「強制」の形がとられる。

⑧⑬心配しないでください。

⑧⑩を発した一郎に対して感謝と思いやりを示すためにこれも「強制」の形になっている。「～ないでください」の文型。

⑧⑭きょうは、どうもありがとうございました。 ⑧⑮きょうは、ありがとう。

何か特別なことをしてもらったときに言うお礼。定期的なことには使わない。謝罪にも同様に使う。「きょうは、申し訳ありませんでした。」

■ 留意点

⑧⑦と⑧⑧の間に、病室にあった赤いカーネーションのフォーカスアウトに続き、二人の持参した花束のフォーカスインがあって時間の経過を表す。

⑧⑨のイントネーションが、引き止めたいという温かさを表すことに注意させる。

■ 生活・文化

⑧⑩、⑧⑫、⑧⑯に対する応答は決まっていないが、「ありがとう」ということが多い。

第 **14** 卷

なみのおとが きこえてきます

— 「いく」「くる」 —

目的・構成

1 目的

この映画は、「いく」と「くる」の用法をさまざまな形で提出し、その意味と用法を理解させることを目的としている。

2 構成

映画の舞台は、初めは、学生寮の私室と談話室、次に水産研究所に向かう途中の駅前と車中、終わりに研究所と海岸というように移っている。それらの場所の移動と、話題になる研究をめぐるの時間的経過などによって、「いく/くる」が描かれていく。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① }	佐藤の 部屋	「山田が来ている」と井上が 誘いにくる。	「きませんか」「きてい る」「いきます」	
	④				
II	⑤ }	談話室	佐藤、山田に近況を聞き、 研究所訪問の約束をする。	あいさつ、近況の聞き方、 答え方、訪問の約束	
	⑭				
III	⑮ }	駅前広 場	研究所へ行くバスは出た直 後。吉川が同乗させてくれ ることになる。	動詞による連体修飾、 「いってしまう」「いく んですか」「～にきます」 「～ていきませんか」	
	20				
	⑳				
	㉑				
IV	㉒ }	車内	行先についての会話。やがて 水産研究所が見えてくる。	「きたんですか」「いく んですか」「～てきます」	
	㉓				
	㉔				
	㉕				
V	㉖ }	研究所 内部	佐藤、研究室入口で岡田に 会い、来意を告げる。山田 が昼食から帰り、あいさつ。 佐藤が研究のことを聞く。 えびとプランクトンの話。	「～ています」 提題の「は」 「～てきました」 「～ていきます/きます」	
	㉗				
	㉘				
	㉙				
	㉚				
VI	㉛ }	海岸	佐藤、山田、海を見に海岸 に出る。波がでてくる。	「～てくるんですよ」	
	㉜				

学習項目

1 主要学習項目

① 「行く／来る」

「行く／来る」の基本的意味は、ともに話し手から見た動作主の移動の行為で、「動作主がある地点を出発し、他のある地点へ到着する目的をもって移動する」ということである。その用法の違いは、話し手の位置がもとなる。

(1) 行く

「行く」は話し手が動作主の到達点以外に立っている場合に用いられる。

④ そうですか。すぐ行きます。 ⑳ 油壺へ行くんですか。

④は動作主＝話し手である。

(2) 来る

「来る」は、話し手が動作主の到着点に立って、動作主の移動行為を見ている。つまり、動作主が話し手の方に向かって近づいている場合である。

㉔ 今、友だちが車で迎えに来ます。 ㉘ ああ、来ました。

㉚ こちらへは初めて来たんですか。

㉜ ほら、向こうから歩いてきます。

「来る」には、話し手が現実には動作主の到達点に立っていないのに、意識の上で到着点に移り、その地点に立って述べていることがある。

㉞ 佐藤さん、談話室へ来ませんか。

㉠ (研究所へ) いつごろ来ますか。 ㉡ ええ、どうぞ来てください。

㉡の場合、話し手が実際に立っているのは、佐藤の部屋の入り口であるが、意識の上ではすでに談話室にいて、そこで佐藤が「来る」のを迎えるという意識の表れである。㉠㉡も話し手は、現在、聞き手であり動作主である佐藤と同じ談話室にいるのであるが、意識の上では、動作主の到着点である「自分の研究所」にいるのである。このような使い方は次のような例でよく見られる。

うちへ来るときは、電話をしてください。

どうぞ、わたしの国へ来てください。

いずれも、発話している時点では、話し手は「うち」にも「国」にもいない場合であるが、日本語ではこのような場合、「行く」は決して用いられない。つまり、話し手が意識の上で、動作主の到着点に立つのは、話し手自身が属している地点、うち、国、部屋、会社などの場合が多いといえよう。㉡においても話し手は、発話以前に、すでに談話室にいて、そこから佐藤を迎えに来たのである。話し手が再び談話室へもどることは明白であり、談話室はこの時点では、話し手が属する所だといえる。日本語を学ぶ学習者の多くが間違えるのはこの「来る」の用法である。教授者はこの点に注意して教えなければならない。

② 「～ていく／～てくる」

「いく／くる」は、単独で用いられる場合と、複合して他の動詞とともに「～ていく／くる」の形で用いられる場合がある。その場合、前部分の動詞と「いく／くる」が対等の動詞である場合と、「いく／くる」が動詞に規定された補助動詞である場合がある。

(1) 動詞と対等の関係にある「～ていく／くる」

場面Ⅴ－5 ㉗ジュースを買ってきました。

この場合、「買う」という行為を行い、それに続いて「くる」という行為が行われたのだから、「買う」と「くる」は互いに独立して対等であると考えられる。ほかにも、

(てがみを)だしていく／くる、置いていく／くる、取っていく／くるなどの例がある。第11巻にも「㉙ちょっと、タバコ屋へ行ってきます。」「㉚じゃあ、鳥井さんと呼んできます。」という例がある。

もうひとつ対等の関係にある例として次のようなものがある。

㉛いっしょに乗っていきませんか。

㉜ほら、向こうから歩いてきます。

㉝あつ、これを持ってきました。

これらの例では、「いく／くる」は、それが付く動詞の行為と同等に平行して行われている。ほかに、

連れていく／くる、持っていく／くる、送っていく／くる

走っていく／くる

などがある。

(2) 補助動詞としての「～ていく／くる」

「いく／くる」が、動作主の空間的移動だったのに対し、補助動詞としての「～ていく／くる」は、時間軸上の推移を示していて、話題とする事物・事柄が話し手を中心にし、遠ざかったり、接近したりする気持ちを添えているといえよう。つまり、「～てくる」は、話し手の立っている時間軸上のある一点から見て、それよりも過去からその点に向かって物事が進行、推移する様子を、話し手の方へ近づいてくるものととらえている。一方、「～ていく」は、話し手の立っている点から未来へ向かっての動きを、話し手から遠ざかるものととらえている。さらに、「～ていく／くる」を内容によってもう少し分類してみると次のようになる。

㉞ 時間的な継続

㉞ええ、学生のころからえびの研究をしてきました。

㉟これからも、えびの研究をしていくんですか。

㊱ええ、続けていきます。

ある行為が過去から継続して行われ、また未来へ向かって継続することを示している。ほかにも次のような例があげられる。

きょうまで何とか生きてきた。

これからも独りでくらししていく。

⑥ 変化

③⑦もうすぐ、右側に海が見えてきますよ。

③⑧あ、見えてきました。

③⑦は、見えない状態から見える状態への変化を、話し手が見えるようになった状態の時点に立って述べたため、「見えてくる」となったと考えられる。

③⑩このように、プランクトンが増えていきます。

③⑪そうすると、えびは減っていきます。

③⑫しかし、プランクトンが減ってきます。

③⑬そうすると、えびはしだいに増えてきます。

③⑭③⑮も③⑦同様、「プランクトンが減った」「えびが増えた」という変化の成立した時点に立って述べたものと考えられる。一方、③⑩③⑪の「～ていく」は、変化の発生した時点に立っていて、それが未来へ向かって進行していくことを示している。ほかに、この映画では例はないが、

○突然いい考えが浮かんできた。○眠けがおそってきた。

など、心理的・感覚的現象が自然発生的に生じたときも「～てくる」を用いる。またこの場合は「～ていく」は用いられない。

2 その他の学習項目

動詞による連体修飾の用法

この映画に出てくる動詞の連体修飾は次の五例である。

場面Ⅲの1 ③⑮あの一、油壺へ行くバスは、どこでしょうか。

Ⅲの1 ③⑯ほら、むこうへ行くバスです。

Ⅲの1 ③⑰こんど出るバスは、たしか、一時ですよ。

Ⅲの3 ③⑱むこうから来る黒い車です。

Vの2 ③⑲あそこに見える建物が研究所です。

(なお、場面Ⅳ—2の車内音楽の歌詞にも「きらきら光る海岸通り」「緑の中を通り抜けて行く真っ赤なポルシェ」という動詞の連体修飾が聞き取れる。)

③⑲は同じ名詞を同時に修飾する別の連体修飾要素の入った例である。これらを見てもわかるように、動詞の連体修飾は、別の関係代名詞や接続詞などの仲介なしに、いわゆる動詞の連体形により、直接名詞に続くことができる。日本語の動詞の活用の本質が「きれ」と「つづき」のための語尾変化であることを、しっかり確認させる必要がある。これはもっと複雑な構造の文を、「こと」や「の」でくり、まとめながら作っていく能力を身につける前の必要な過程である。

シナリオに沿って

I	佐藤	①	はい。	佐藤の部屋
	井上	②	佐藤さん、談話室へ来ませんか。	
		③	いま、山田さんが来ているんです。	
	佐藤	④	そうですか、すぐ行きます。	
II	佐藤	⑤	こんにちは。	談話室
		⑥	ひさしぶりですね。	
	山田	⑦	ほんとうにひさしぶりですね。	

■ 語彙・表現

はい：ドアがロックされたことに対して答えた返事である。「ええ」とは答えない。

名前の点呼に答えるときも「はい」である。

談話室：寮などで、来客との面会、寮生の親睦などのための共通の部屋。(ソファ
ー・テレビ・喫茶の設備などがある。ホテルのロビーに類する。)

こんにちは：昼、人と会ったときのあいさつ。毎日会う人にはあまり使わない。

ひさしぶり：長い間会わなかったあとで会うこと。「～ぶり」は、時間を表す語につけて、ある時間の経過を示す。→「しばらくぶり」「5年ぶり」

映像 ⇒ 本棚 絵の額 ソファ

■ 文法

②佐藤さん、談話室へ来ませんか。 ③いま、山田さんが来ているんです。

②で話し手井上は、実際には、談話室にいないで、佐藤の部屋の入り口にいる。もしここで「談話室へ行きませんか。」と言ったら、井上はまだ談話室に行っていないで、電話か何かで山田の来寮を知り、途中で佐藤を誘っていることになる。③は山田が談話室に来ているわけだが、これは結果の状態を表す「～ている」である。

④そうですか、すぐ行きます。

自分の部屋から談話室へ行く。特に問題のない基本的用法である。「すぐ」はこの場合、時間的間隔をおかず、という意味である。

■ 留意点

佐藤が談話室に入っていくと山田は座って迎える。もし、佐藤が年長者であるか、社会的地位のある人物の場合には、山田は立ち上がって迎えねばならない。

■ 生活・文化

日本の学生寮の私室の様子が参考になる。(第2、5、11、12巻参照)

II	佐藤 ⑧ 山田さん、最近は、おいそがしいですか。
	山田 ⑨ ええ、すこしいそがしいです。
	佐藤 ⑩ 今度、研究所へ行ってもいいですか。
	山田 ⑪ ええ、どうぞ。
	⑫ いつごろ来ますか。
	佐藤 ⑬ 来月のはじめごろは、どうですか。
	山田 ⑭ ええ、どうぞ来てください。

■ 語彙・表現

いそがしい：仕事が多くて時間が少ない。↔(ひまな)→(おいそがしい) (山田に対する尊敬を表す。)

研究所：学問的調査研究をする場所。→(研究)

どうぞ：相手に対して何かをすすめるときに使う。

いつごろ：いつ、とはっきり聞くよりえんきよくであり、丁寧になる。

■ 文法

⑩今度、研究所へ行ってもいいですか。

「行ってもいいですか」は相手に許可を求める言い方である。(第21巻P8参照)「今度」は不特定な時を表している。場合によっては、「また、今度」というような表現で、実際には、すぐ実現しないことを承知のうえで、お互いに言い合うこともある。

⑫いつごろ来ますか。 ⑭ええ、どうぞ来てください。

山田は自分が研究所に「いる」立場で質問し、また相手を迎え入れようとしている。つまり、話し手は意識のうえでは動作主の到達点に立っている。

■ 留意点

⑧⑨は、ごく一般的なあいさつであり、近況の聞き方である。⑧に対する⑨の答え方は、両者の関係によって、いろいろ変化するであろう。この二人のような学生と先輩という気安い関係でなければ、日本の一般ではもう少し控えめで、あいまいな返事になるのが、ふつうである。

訪問予約をとりつける仕方について、日本の一般の習慣を教えることもできる。相手の都合によって訪問する日時を決める。また玄関先だけで用事をすませるか、中に上がるかなども問題になる。

この場面の後、次の場面は、すぐ訪問日の駅前風景となる。当然、もう少し、詳しい打ち合わせなどがあったことを考えに入れさせる。

III 1	佐藤	⑮	あの一、油壺へ行くバスは、どこでしょうか。	駅前
	吉川	⑯	えーと、そのバスは、いま行ってしまいましたよ。	
		⑰	ほら、向こうへ行くバスです。	
		⑱	今度出るバスは、たしか、1時ですよ。	
	佐藤	⑲	40分もありますね。	
		⑳	困ったなー。	

■ 語彙・表現

あの一：文頭にあって、相手の注意をこちらに向けさせるとき使う。

油壺：神奈川県三浦半島南端の西側にある。研究所が油壺にあるという設定である。

えーと：何かを思い出そうとしているときに使う。

ほら：相手の注意を喚起する。目上の人には使わない。

たしか：自分の知っている限りでは。→(確かに)

困ったなー：→ああ、よかった。(ひとり言的発言)

映像 ⇒ 駅前 電話ボックス バス停 腕時計

■ 文法

⑮油壺へ行くバス ⑰向こうへ行くバス ⑱今度出るバス

動詞文による連体修飾である。動詞(連体形)は直接名詞にかかる。→「バスが(は)油壺へ行く。」「バスが(は)向こうへ行く。」「バスが(は)今度出る。」

⑯そのバスは、いま行ってしまいましたよ。

バスが行く(出発する)という行為の完了を表す。(第12巻P24参照)

⑱今度出るバスは、たしか、1時ですよ。

今度出るバスの出発時刻は1時ですよ、という意味である。「今度出るバス」を主題にして、それについての時間を述部で述べている。

■ 留意点

見知らぬ人間同志が話し合っている態度に注意。呼びかけ語、会話を始動するときの速さ、イントネーションなどに特徴がある。

■ 生活・文化

駅前風景は、ごく一般的でどこでも見られるものである。案内板もあるが、人に聞くことも多い。

III 2	吉川 ㉑	油壺へ行くんですか。
	佐藤 ㉒	ええ。
	吉川 ㉓	わたしも油壺へ行きます。
	㉔	いま、友達が車でむ迎えに来ます。
	㉕	いっしょに乗っていきませんか。
III 3	佐藤 ㉖	すみません。
	㉗	じゃ、お願いします。

■ 語彙・表現

車：自動車。会話では、車ということが多い。

すみません：相手の好意ある提案に対し、すまなく思い、感謝の気持ちを述べている。㉑ではやや恐縮しながらの発言。

じゃ：では、それでは、の口語的表現。「すみません」には、ためらいの気持ちがあつたがそれに続く「じゃ」は、相手の提案を受けて自分の考えを述べようとして用いられている。

お願いします：相手の世話になることを依頼するあいさつ。→(よろしく願います。)

■ 文法

㉑油壺へ行くんですか。 ㉓私も、油壺へ行きます。

吉川は、困っている佐藤を見て、ちょうど自分もそちらの方角に行くことだし、車に乗せてやろうと考えて、「行くんですか」という関心を示した表現になっている。もし、単なる行きずりだったら、立ち入り過ぎている。

㉔いま、友達が車で迎えに来ます。

「動詞(連用形)+に+行く/来る」の形で、動詞部分は「行く/来る」の目的を表す。(第10巻P69参照)

㉕いっしょに乗っていきませんか。

「～ていく」の形である。「乗る(乗っている)」と「いく」という動作が平行的、同時的に行われる。「～ませんか」は、相手に対する提案。(第13巻、P45参照)

■ 留意点

㉖㉗は相手の好意に対して、日本人はふつう、もう少し遠慮するものであるが、この場合は佐藤が学生であるためか、あっさりしている。また吉川も一般に比べて、ずいぶん社交性がある。

III 3	吉川 ㉘ ああ、来ました。 ㉙ 向こうから来る黒い車です。 ㉚ さっ、どうぞ。 佐藤 ㉛ すみません。	
IV 1	吉川 ㉜ こちらへは、はじめて来たんですか。 佐藤 ㉝ ええ、はじめて来ました。 吉川 ㉞ どちらへ行くんですか。 佐藤 ㉟ 水産研究所へ行きます。 吉川 ㊱ そうですか。	車の中

■ 語彙・表現

さっ、どうぞ：相手の行動をうながし、何かをすすめるときに使う。

こちら：ここでは、話し手の現在いる三浦半島先端部をさす。

水産研究所：「水産」関係の研究所。水産→川、海、湖、沼における魚、貝、海そう、えび、プランクトンなどの生物資源。

■ 文法

㉘来ました。 ㉙向こうから来る……。

車が到達点に向かっている「来る」の用法。

㉙向こうから来る黒い車です。

動詞文による連体修飾である。「黒い」も連体修飾である。→「黒い車が向こうから来る。」

㉜はじめて来たんですか。 ㉝はじめて来ました。

別のところから油壺へ「来た」（到着した）ことを話題にしている。

㉞どちらへ行くんですか。 ㉟水産研究所へ行きます。

油壺という場所の中で、今いる地点から別の地点へ「行く」（移動する）ことを話題にしている。

■ 留意点

佐藤は場面IIで山田の研究所へ行ってもいいかどうかきいている。そして来月のはじめごろ行く約束をした。それが㉟でわかる。山田の研究所は、水産関係の研究所であり、山田の研究内容については場面Vで展開することになる。

■ 生活・文化

吉川と佐藤の㉜～㉟の会話は、初対面の人どうしの会話としてごくあたりさわりのないものである。吉川の㉞の問いには、場合によっては行き先まで送ってあげようという親切心があるのだろう。佐藤も行き先をはっきり答えているが、「ちょっと先輩のところまで」のような答え方もできる。

IV 2	吉川 ③⑦	もうすぐ、右側に海が見えてきますよ。
	佐藤 ③⑧	あっ、見えてきましたね。
	吉川 ③⑨	あそこに見える建物が研究所です。
	佐藤 ④⑩	あの白い建物ですね。
	吉川 ④⑪	ええ。

■ 語彙・表現

もうすぐ：時間があまりたたずに。

見える：→見る、聞く↔聞こえる。第9巻「その他の学習項目」および第17巻参照。

右側：→左側、向こう。

映像 → テトラポッド

■ 文法

③⑦もうすぐ右側に海が見えてきますよ。 ③⑧あっ、見えてきましたね。

③⑦はすでに海の存在を知っている者が、見える状態に自分を置いて、③⑧は実際に目にしての発話である。この「～てくる」は時間的推移による変化を表している。

③⑨あそこに見える建物 ④⑩あの白い建物ですね。

③⑨は、動詞文による連体修飾である。→「建物が(は)あそこに見える。」④⑩は「あの」と「白い」の二つが連体修飾となっている。「あそこに見える」をそう言いかえたのである。④⑪はそれに対する応答。

■ 留意点

この場面、音楽に乗って、海の景色なども見え、学習者の気分転換になる場面である。

今まで話題になった研究所は、水産研究所らしく海に面した白い建物である。

■ 生活・文化

車内音楽は、1978年にヒットした山口百恵の「プレイバックPart 2」という歌謡曲である。

V 1	佐藤 ④② すみません。	(研究室)
	岡田 ④③ はい。	
	佐藤 ④④ 山田さんは、いらっしゃいますか。	
	岡田 ④⑤ 山田さんは、いま、お昼ごはんを食べに行っています。	
	④⑥ すぐに帰ってきます。	
	佐藤 ④⑦ そうですか。	
	岡田 ④⑧ どうぞ、こちらへ。	
	佐藤 ④⑨ はい。	
V 2	岡田 ⑤⑩ あっ、帰ってきましたよ。	
	⑤⑪ ほら、向こうから歩いてきますよ。	
	⑤⑫ お客さんですよ。	

■ 語彙・表現

はい：④③は「何ですか」という気持ちの「はい」である。「ええ」に言いかえることはできない。④⑨は相手の申し出を承知した返事である。

いらっしゃる：「行く」「来る」「いる」の尊敬語である。ここは、「いる」に当たる。(第29巻参照)

お昼ごはん：昼食。岡田が女性であるから「お」がついている。「食事に行っています」というように表現してもよい。また「ちょっと席をはずしています」などとも言う。

お客さん：来客の意。

映像 ⇒ 水槽 顕微鏡 フラスコ 試験管 白衣

■ 文法

④⑤お昼ごはんを食べに行っています。

「動詞(連用形)+に+行く/来る」の形で動詞部分が目的を表す。②④参照。

④⑥すぐ、帰ってきます。 ⑤⑩帰ってきましたよ。 ⑤⑪むこうから歩いてきます。

「～てくる」の形である。「帰る」「歩く」という動作が「来る」という移動性と平行して行われる。

■ 留意点

この段階では岡田(女性)が何者であるかは、はっきりしない。実験服を着て、データを取ったりしているから、研究所の一人だろうという想像はつく。

事務所などに人を訪ねて、不在であれば「待たせていただいていたいいですか」と聞くのがふつうである。場合によっては、その時間、外で過ごして、あらためて訪問しなければならない。

V 2	山 田 ⑤③	そうですか。
		⑤④ ありがとう。
		⑤⑤ やあ、よく来ましたね。
	佐 藤 ⑤⑥	こんにちは。
	山 田 ⑤⑦	こんにちは。
	⑤⑧ さっ、どうぞ。	
V 3	岡 田 ⑤⑨	何か飲み物を買ってきませんか。
	山 田 ⑥⑩	じゃ、お願いします。

■ 語彙・表現

やあ：親しい間柄の男性が人と出会ったときや呼びかけに使うあいさつ。

何か：何であるかはわからないが、適当な物という意味。

飲み物：飲むための、茶、コーヒー、酒などをいう。

■ 文法

⑤⑤ やあ、よく来ましたね。

「来る」は水産研究所が到達点で、別の場所から水産研究所へ来る、である。

■ 留意点

時間の約束はともかく、来客が待っていたときは、「やあ、お待たせしました。」

などと言うのがふつうである。または、外出するとき、助手などに、「これこれの人が来る予定だ」など伝言していくほうがよい。

■ 生活・文化

約束した訪問にしては、山田の応待が、淡々とし過ぎているようにも感じる。また、車で来てしまって意外に早かったので、山田がまだ昼食中だったなどと想像することはできる。

岡田は⑦④になると、山田の研究助手とわかるが、ここまでは、何者かまだはつきりしない。彼女が飲み物を買ってくることを申し出ることは、日本の職場での女性の役割として、現実にはあり得ることである。学習者の出身国によって反応が違うであろう。

V 3	佐藤	⑥1	あっ、これを持ってきました。
	山田	⑥2	ありがとう。
	佐藤	⑥3	ここは、静かですね。
		⑥4	波の音がここまで聞こえてきますね。
	山田	⑥5	ええ、今日は、いつもよりよく聞こえます。
V 4	佐藤	⑥6	山田さんは、いま、何の研究をしているんですか。
	山田	⑥7	えびの研究をしています。
	佐藤	⑥8	山田さんは、ずっとえびの研究をしているんですね。
	山田	⑥9	ええ、学生のころからえびの研究をしてきました。
		⑦0	いまは、えびとプランクトンの関係を研究しています。

■ 語彙・表現

聞こえる：→(聞く、見える)↔(見る) 第9巻「その他の学習項目」参照。

えび：lobster, shrimp, prawn

プランクトン：plankton

関係：別のものごとを結びつけている何か。

■ 文法

⑥1これを持ってきました。 ⑥4波の音がここまで聞こえてきますね。

「持ってくる」は「持つ」という動作と平行して、到着点へ「来る」という行為である。「聞こえてくる」の「くる」は、「聞こえる」という状態が自分に到着するという表現である。

⑥9ええ、学生のころからえびの研究をしてきました。

学生のころという過去から、今現在、研究所の研究者としてまで、えびの研究を継続してきたということである。時間の軸の上でみているわけである。

■ 留意点

⑥1で佐藤がさし出す物を、みやげ物と見ると、みやげ物を出すタイミングなども、話題にすることができる。日本のお返しの習慣について知識を与えてもいい。また、相手の接待や、みやげ物に対して、一応遠慮の身ぶりやあいさつをするのがふつうである。ここは学生と学者であっさりしているとみなしてもよい。

V 5	岡田	⑦①	ジュースを買ってきました。
	山田	⑦②	ありがとう。
		⑦③	どうぞ。
		⑦④	あっ、すみませんが、ぼくの机の上からあのデータを持ってきてください。
	岡田	⑦⑤	はい。
	山田	⑦⑥	ほら、きれいでしょ。
		⑦⑦	こんなものもあるんですよ。
	岡田	⑦⑧	はい。
	山田	⑦⑨	このグラフは、青い線がプランクトン、赤い線がえびです。

■ 語彙・表現

ジュース：juice

どうぞ：相手に何かをすすめるときに使う。この場合、「どうぞ、飲んでください」である。

データ：data。立論・計算の基礎となる資料。

グラフ：graph。図表。→(棒グラフ・線グラフ)

線：→(点、丸)

■ 文法

⑦①ジュースを買ってきました。

⑦④あっ、すみませんが、ぼくの机の上からあのデータを持ってきてください。

「～てくる」の形である。⑦①は「買う」という行為の後、到着点に「来る」、

⑦④は「持つ」という行為の後、到着点に「来る」。

⑦⑨このグラフは、青い線がプランクトン、赤い線がえびです。

「このグラフは」は、「このグラフについて説明すると」といった意味である。

それを主題に「青い線がプランクトンを示し、赤い線がえびを示している」

ということになる。「～は～が～」の文型。第8巻「学習項目」参照。

■ 留意点

ジュースのお金はどうなるのか気になる。こういうことは、客の前で言わないのがふつうである。

この画面には岡田の買ってきたジュースが映っているが、ふつう職場に来客があった場合は日本茶が出されることが多い。

V 5	山 田 ⑧⑩	このように、プランクトンが増えていきます。
		⑧⑪ そうすると、えびは減っていきます。
		⑧⑫ しかし、プランクトンが減ってきます。
		⑧⑬ そうすると、えびはしだいに増えてきます。
	佐 藤 ⑧⑭	おもしろい研究ですね。
		⑧⑮ これからも、えびの研究をしていくんですか。
	山 田 ⑧⑯	ええ、続けていきます。
VI	山 田 ⑧⑰	ちょっと海を見に行きませんか。
	佐 藤 ⑧⑱	ええ。
		⑧⑲ おや、波がでてきましたね。
	山 田 ⑧⑳	午後は、いつも波がでてくるんですよ。

■ 語彙・表現

増える：↔(減る)

しだいに：だんだん。

これからも：今後も。→(今から)

ちょっと：海がすぐそこなので、「ちょっと」となる。気軽な感じである。

おや：あることに気がついたときに言う。

波がでる：海面に目につくような波がでてくる。

■ 文法

⑧⑩プランクトンが増えていきます。 ⑧⑪えびは減っていきます。

⑧⑫プランクトンが減ってきます。 ⑧⑬えびはしだいに増えてきます。

これらの「～ていく」「～てくる」は入れ替え可能である。時間上の推移を話者の主観によって言いわけている。過去から現在に「～てくる」、現在から未来へが「～ていく」である。映像とともにグラフに指を動かしながら「増えていきます、減ってきます」と説明が行われていることで理解をはかりたい。

⑧⑮これからも、えびの研究をしていくんですか。⑧⑯続けていきます。

時間軸上の「～ていく」である。つまり、「研究をする」「続く」を現在から未来へ向かっての継続的行為として表現している。

⑧⑰海を見に行きませんか。

「動詞(連用形)+に+行く/来る」である行為を目的として「行く/来る」という動作をすることを表す。「～ませんか」は勧誘の言い方。

第 **15** 卷

うつくしい さらに なりました

— 「なる」「する」 —

目的・構成

1 目的

この映画の目的は、事物・状態の変化を表す「なる」「する」を提示し、その意味・用法の理解をはかることにある。

2 構成

映画は三つの場面にわかれている。(1) 陶工の仕事場、(2) 都会の風景、(3) 学生寮の三つである。各場面が独立していて、ストーリーの一貫性はない。また、三つの場面のそれぞれに「れんしゅう」がつけられている。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	提示	陶工の 仕事場	陶工が皿を作る。 その過程の見学。	色彩・形態の変化 形容詞「～く」+なる 名詞+に+なる 形容詞「～く」+する 名詞+に+する	
	① } ⑱				
	練習				
	⑳ } ㉘				
II	提示	都会の風景 富士山の情景	夜明け前から夜になるまでの都会の情景。 夏と冬の富士山。	自然現象、情景の変化 形容詞「～く」+なる 名詞+に+なる	
	⑳ } ㉓				
	練習				
	㉔ } ㉗				
III	提示	学生寮	学生寮で、坂本が隣室の森にステレオの音が大きいと注意する。部屋は、静かになる。	音量の変化 形容詞「～く」+なる 形容詞「～く」+する 形容動詞「～に」+なる	
	㉙ } ㉚				
	練習				
	㉛ } ㉞				

学習項目

1 主要学習項目

「なる」「する」の意味・用法

この映画の学習項目は「変化する」ことを表す「なる」、および「変化させる」ことを表す「する」である。

(1) 文型

(「名詞+が」)	<table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">名詞</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; padding: 0 5px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 5px;">に</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 10px;">なる</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">形容動詞(語幹)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">形容詞(連用形)(〜く)</td> </tr> </table>	名詞	}	に	}	なる	形容動詞(語幹)	形容詞(連用形)(〜く)
名詞	}	に					}	なる
形容動詞(語幹)								
形容詞(連用形)(〜く)								
(「名詞+が」「名詞+を」)	<table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">名詞</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; padding: 0 5px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 5px;">に</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 10px;">する</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">形容動詞(語幹)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">形容詞(連用形)(〜く)</td> </tr> </table>	名詞	}	に	}	する	形容動詞(語幹)	形容詞(連用形)(〜く)
名詞	}	に					}	する
形容動詞(語幹)								
形容詞(連用形)(〜く)								

「名詞+が」と「名詞+を」は文脈によって明らかな場合省略されることが多い。

(2) 用法

「なる」は、あるものがある状態に変わることを意味し、それが何によって変えられたかを特に述べない自動詞である。

- ⑤大きくなりますね。
- ⑥薄くなりましたね。
- ⑦皿になりましたね。
- ⑧ああ、静かになった。

変化の結果として生じる状態はさまざまであり、年齢・値段などの数量や、職業・身分なども含む。

- ㉑来年で20才になる。
- ㉒ラーメンが400円になった。
- ㉓この子は船乗りになりたいと言っています。

「する」は、あるもの(主体)がほかのもの(対象)をある状態に変えることを意味する。主体を表す「名詞+が」が省略されている場合でも、行為者である主体は存在していて、それによる影響が含意されている。

- 場面Ⅰ
- ③薄くします。
 - ④大きくします。
 - ㉔まるい皿にしました。
 - ㉕静かにしてください。

以上の⑤と④、⑥と③、⑦と㉔、⑧と㉕は、「なる」「する」が違うだけで、対応していることに注意されたい。しかし、「なる」「する」が対応しないこともあ

る。その一つとして、自然現象の変化を表す「なる」がある。

- 場面Ⅱ ㉔明るくなります。
 ㉕朝になりました。
 ㉖暗くなります。
 ㉗夜になりました。

上のような場合には、「なる」を「する」と言いかえることはできない。この場合、変化の主体（「名詞+が」）が表現されないことにも注意したい。

- ㉘氷がとけて水になります。
 ㉙来年で20才になる。
 ㉚早いもので、娘はもう3人の子の母親になっています。

これらも主体の意志にかかわらず変化が行われる場合である。これらの例も自然現象に準じて考えることができる。

(3) 応用

ここでの「なる」「する」の学習から、以下のような学習事項へと発展させていくことができる。教授者はこのような展望の中で必要に応じて学習範囲の拡張を考慮してよい。

- ①自動詞・他動詞
 ②決定を表す「名詞+になる／する」、「～ことになる／する」
 ③種々のイディオム「気になる／気にする」「だめになる／だめにする」
 「無駄になる／無駄にする」「問題になる／問題にする」「苦になる／苦にする」「何とかなる／何とかする」など。

ことに、②の「名詞+になる／する」は会話でひんばんに使われる。たとえば飲食店で、

- ㉛(ウェイトレスが)今日はAランチだけになっています。
 ㉜(客が)ぼくはうなぎにしよう。

2 その他の学習項目

省略

日本語教育の初期の段階では「わたしは日本人です。」「あなたは毎日バスに乗って学校へ来ますか。」などの表現で学習を進めるが、やがて省略された文にも多く接するようになる。しかし、その移行の段階で学習者に十分な説明が与えられているとは言えない。学習者がカンで身につけるところが多い。しかし、教授者としては、省略の規則のおおよそを理解しておくことは必要だろう。以下は、三上章『文法小論集』（くろしお出版、1970）を参考にした。

(1) 前文の主題が次の文でも引き継がれるとき、省略されることが多い。

鯨は哺乳動物です。∅魚ではありません。(省略されている部分を∅で示す)

(2) 前文で注意の焦点にあった名詞句は、自然に次の文の主題になりあがる。

先生は本を措いて今し方小間使いが持ってきた、小さな名刺を一瞥した。

◇象牙紙に細く西山篤子と書いてある。

上の例文で、最初の文に出てくる「名刺」が、次の文では省略された主題となっている。

(3) 話し手・聞き手の眼前にある事物はよく省略される。

なんだろう、これ？

◇食べ物じゃないみたいね。

話し手・聞き手自身の省略もこの中に含まれる。周知のように、話し言葉では、話し手や聞き手をさす言葉は、ことにそれが主題化されるときには、省略されることが非常に多い。

(4) 一般的主語、すなわち西欧語の不定人称主語（英語では、we、you、they など）に相当する名詞句は省略される。

◇西へ行くほど、土地が高くなります。

省略とは別に、主語の補いようのない文がある。三上章のいう「無主格文」である。そもその初めから主語をとりようがないのであり、「省略」とは異質である。次のように、時間や天気について言及する文に多い。

㊿朝になりました。

㊿夜になりました。

㊿明治3年の正月3日のことである。

㊿いい天気ですね。

使用にあたって

1 効果的な使い方

この映画は三つのシーンにわかれ、しかもそのそれぞれが提示と練習の二つにわかれるという特徴をもっている。全体を貫くストーリーはなく、それぞれがばらばらである。しかしこのことは必ずしも教材としての欠陥ではない。必要に応じて順序を入れ替えたり、大切なところだけを見せる、というように教授者の裁量によって自由にできる点は、むしろ積極的に活用していきたい。

場面Ⅰについては、発話が画面の状況から引き離されてしまっているという問題がある。そのために、教材そのままの提示・練習では通り一ぺんのものにならないをえない。教授者の側でのもう一工夫がほしいところである。窯場^{かまぼ}の見学という、日常なかなか得られない経験ができるのだから、この映像をなんとかして生かしたいところである。

場面IIについては、町の明るくなり方、および夕焼けの赤くなり方がはっきりしない、ということをもっと意識した上で授業にのぞむことが必要だろう。

全体を通じて、使われる文型は基本的に「～なる」「～する」の二つだけで、とりたてていうほどのヴァリエーションもなく語彙も多様性に乏しい。ごく初級段階の学習者に対しては、この特徴をフルに利用して徹底的に文型の定着をはかるための教材として使いたい。しかし、程度の進んだ学習者に対しては、ある程度教材を離れて表現法や用法・語彙をふくらませていかなければならないだろう。

2 トピック

① 陶器と磁器

映画に出てくるのは茨城県の笠間焼（陶器）である。

陶器とは、粘土質の土で形をつくり、釉薬（うわぐすり）をかけて低火度で焼いた器をいう。素地は焼き締まりが弱く多孔質で吸水性があり不透明である。焼き上がりは、磁器にくらべてやわらかい感じを与える。磁器とは、同じく陶土で形をつくり釉薬をかけるが、高温で焼いたもののことをいう。焼き上がりは素地がガラス化して半透明となり吸水性がほとんどなくなり、たたくと金属的な音を発する。陶器の代表的なものには薩摩焼・信楽焼（しがらき）がある。磁器は有田焼・瀬戸焼・清水焼・九谷焼など。あわせて陶磁器という。また、瀬戸物・焼き物ともいう。しかし、陶器と磁器の境界ははっきりしないことが多い。

② 日本の陶磁器の歴史

日本の陶器の歴史は古く、縄文時代にさかのぼる。しかし、鎌倉時代に至るまでは、技術の発達は緩慢であった。13世紀はじめ、宋の製陶の法を学んで瀬戸焼が興った。室町時代に入って茶が流行するとともに、陶器の芸術的価値に目が向けられるようになった。諸大名の産業政策の一環として各地（おもに西日本）に窯をひらき、朝鮮から新しい技術を伝えることになった。有田焼などの日本の磁器は、この時に始まる。江戸時代に入って、焼き物は各藩の庇護によって育った。この時期のものとして、九州の鍋島、伊万里、薩摩、平戸、高取、長州の萩、紀州の偕楽園、加賀の九谷、伊賀の丸柱などが知られている。

③ 全国の主要な産地

ここで、現在のおもな陶磁器の産地をあげておく。

益子(栃木県)、笠間(茨城県)、九谷(石川県)、美濃(岐阜県)、瀬戸(愛知県)、信楽(滋賀県)、清水(京都市・宇治市)、備前(岡山県)、布志名(島根県)、萩(山口県)、高取(福岡県)、唐津、伊万里、有田(以上、佐賀県)、苗代川(鹿児島県)、壺屋(沖縄県)。

シナリオに浴って

I 1	<p>A ① 何を作っていますか。</p> <p>陶工 ② 皿です。</p> <p>③ 薄くします。</p> <p>④ 大きくします。</p> <p>B ⑤ 大きくなりますね。</p> <p>A ⑥ 薄くなりましたね。</p> <p>B ⑦ 皿になりましたね。</p>
-------------	--

■ 語彙・表現

薄い：1. (この場合のように) 器物の厚みについていう。↔厚い 2. 色・味・液体の濃度・ひげ・毛髪・霧・利益などの程度、密度についてもいう。↔濃い

■ 文法

①何を作っていますか。

疑問詞(「なに、なぜ、だれ、いつ」など)をもつ疑問文は、文末が「のか／のですか」によって結ばれるのがふつうである。これは「～のだ」の、前提となっている事柄について説明を与える(疑問文では説明を求める)働きによる。「何を作っているんですか」という方がより実際に近い文型である。ここでは、主語(主題)が省略されている。

②皿です。

このように、答えの核心部分(最も情報度の高い部分)に「だ」のみを付けて質問に対する答えとすることが多い。これも省略の一種である。

③薄くします。 ④大きくします。

形容詞「～く」の形+「する」で変化させる言い方。

⑤大きくなりますね。 ⑥薄くなりましたね。 ⑦皿になりましたね。

「(変化の主体)が(変化の結果)になる」の構文で、「変化の結果」を表す語句は、それが形容詞の場合は「～く」の形、名詞の場合は「名詞+に」となることを徹底させたい。⑦「皿になりましたね。」は、粘土のかたまりが皿の形になったという、「前後の状態の変化」に着目する表現である。「皿ができましたね」との違いに注意。

■ 留意点

この場面、せっかくの窯場の見学という体裁をとりながら、状況設定の面でも出演者の口調(特にイントネーション)の面でも、臨場感がないのが惜まれる。教授者の側での何らかの工夫が必要だろう。

I 1	陶工	⑧	かわかします。
		⑨	かまに入れます。
		⑩	焼きます。
	A	⑪	ずいぶん固くなりましたね。
	B	⑫	どんな色にしますか。
	陶工	⑬	黒にします。
		⑭	こことここは、青くします。
	B	⑮	こんな色が、黒や青になりますか。
	陶工	⑯	ええ、なりますよ。

■ 語彙・表現

かわかす：「洗濯物／ぬれた着物をかわかす」↔かわく →ほす

かま：陶磁器などを焼く加熱装置。

入れる：↔入る

焼く：熱を加えて加工し、目的のものを得る。→肉を焼く／パンを焼く

色：赤(い)、白(い)、青(い)、黒(い)、黄色(い)、緑(の)……。

固い：↔柔らかい

■ 文法

⑫どんな色にしますか。 ⑬黒にします。 ⑭こことここは、青くします。

変化を表す「する」を用いているが、「青くする」「青にする」の違いに注意。前者は「形容詞「～く」の形＋する」、後者は「名詞＋に＋する」である。意味的には、前者はほかの色から青に「変化」させる場合しか言えない。後者は、前者の用法をも含むが、もっと広く青という色に「決定・選択」するときにも用いられる。

⑮こんな色が、黒や青になりますか。 ⑯なりますよ。

「黒や青になるんですか」より日常の発話に近いだろう。「～のだ」を用いれば、相手の意外な発話に対して確認を求める用法であり、前提となっている事柄について説明を与える（疑問文では説明を求める）用法の一種である。

■ 留意点

発話のイントネーションが中途半端で、実際に見学して言っているというよりも、アナウンサーがフィルムを見ながら話しているという印象がする。そのために、日常の口調からは遠ざかっているので注意を要する。

I 1	陶工 ⑰	これをもう一度、かまに入れます。
	Q ⑱	美しい皿になりましたね。
	A ⑲	いい色になりましたね。
I 2	Q ⑳	どうしましたか。
	A ㉑	薄くしました。
	A ㉒	大きくしました。
	Q ㉓	どんな形にしましたか。
	A ㉔	まるい皿にしました。

■ 語彙・表現

もう一度：もう一回。→「もう一度教えてください。」

どう：どのように。どう変化させたか聞いている。

形：物の全体の形。

まるい：↔四角い、三角な、細長い。

■ 文法

⑱美しい皿になりましたね。 ⑲いい色になりましたね。

⑳どうしましたか。 ㉓どんな形にしましたか。(次ページの文法㉕㉖も参照)

前ページの⑪の「形容詞「～く」の形+なる」は「名詞+に+なる」だが、「なる」は「た」を伴って変化の結果に重点を置いた表現になっている。この文型の典型的な例は、天気、天候、時間など自然現象について言う場合だろう。

→「いい天気になりましたね。」/5時になりました。家に帰る時間です。」など。

■ 留意点

この「れんしゅう」の場面では、問われていることの内容が必ずしも明確でなく（「どうしましたか」など）、それに対する答えも恣意的でありうる。たとえば「どうしましたか」に対しては、㉑、㉒どちらをどの順で答えてもよい。また、「皿を作りました」のような答えでもよい。

■ 生活・文化

陶器の皿ができ上がるまでの工程をまとめておく。①粘土。②ろくろを使って、皿の形にする。③乾燥場に置いてかわかす。④窯に入れて焼く。⑤釉薬をかける。⑥再び窯に入れて焼く。⑦完成。

映画で見るとような短時間では工程が終わらず、何日もかけて完成されることにも注意したい。陶器は生活語彙のレベルでは「せともの」と言う。学習者の興味によって漆器などを含めた伝統工芸に話題を広げてよいだろう。

I 2	Q	②5	どうになりましたか。
	A	②6	固くなりました。
	Q	②7	どんな皿になりましたか。
	A	②8	美しい皿になりました。
II 1	ナレーション	②9	明るくなります。
		③0	朝になりました。
		③1	赤くなります。
		③2	暗くなります。
		③3	夜になりました。

■語彙・表現

明るい：↔暗い

赤い：→夕焼け空が赤い

朝：↔夜

■文法

②5 どうになりましたか。

②7 どんな皿になりましたか。

名詞+「に+なる/する」の文型を使って、変化の結果を問うときには、「どんな+名詞」を使う。形容詞「～く」の形+「なる/する」の文型について問うときは、疑問詞は「どう」を使う。「どんな」に対し「どのような」は会話ではまれである。

②9 明るくなります。～ ③3 夜になりました。

この五つの文では、すべて「なる」が使われている。この「なる」を「する」と言いかえることはできない。また、②9～③3は、主語がない。

■留意点

II—1の場面で、夜明けの町が徐々に明るくなっていくシーンの明るくなり方があまりはっきりしない。また、夕焼けの赤くなるシーンも、赤くなったかと思う程度で、映像教材としてあまり適当でない。「暗くなります」「夜になりました」は、変化がはっきりしている。

II 2	Q	③④	どうになりましたか。	
	A	③⑤	明るくなりましたか。	
	Q	③⑥	どうになりましたか。	
	A	③⑦	赤くなりましたか。	
	Q	③⑧	どうになりましたか。	
	A	③⑨	暗くなりました。	
			④⑩	夜になりました。
	Q	④⑪	どうになりましたか。	
	A	④⑫	白くなりました。	
	III 1	坂本	④⑬	大きな音だな。
森		④⑭	何ですか。	
坂本		④⑮	森さん、音をもうすこし小さくさせてください。	
森		④⑯	すみません。	

■ 語彙・表現

音：「高い／低い音」「大きい／小さい音」「音を立てる」「音を出す」「音がする」
→声

何ですか：→「何でしょうか」（よりていねい）

すみません：謝るときのほかに、「ありがとう」などの意味でも使うことができる。

しかし、後者の意味で「すみません」ということは場合によって不適當。

■ 文法

③④どうになりましたか。～④⑫白くなりました。

②⑨～③⑩の学習を基にそれを問答形式にしたもの。

④⑮森さん、音をもうすこし小さくしてください。

「小さくする」を命令の表現「～てください」で言ったもの。

■ 留意点

英語などの「スル」型の言語に対して、日本語は「ナル」型の言語であると言うことがある。（池上嘉彦『「する」と「なる」の言語学』、大修館、1981）。英語が主体の意志による決定を重んじるのに対して、日本語では自然のなりゆきとしてそのようになるかのように表現する。英語の受動表現に日本語の自動詞が対応するなどその例である。（家が建つ、など）

III 1	森	④7	小さくします。
	坂本	④8	ああ、静かになった。
III 2	Q	④9	森さんは、何をしましたか。
	A	⑤0	音を大きくしました。
	Q	⑤1	音は、どうになりましたか。
	A	⑤2	大きくなりました。
	Q	⑤3	森さんは、何をしましたか。
	A	⑤4	音を小さくしました。
	Q	⑤5	音は、どうになりましたか。
	A	⑤6	小さくなりました。
		⑤7	静かになりました。

■ 文法

④8 ああ、静かになった。

「形容動詞＋なる」の文型。形容動詞の場合、「形容動詞(語幹)＋に＋なる／する」となる。前提として、形容詞と形容動詞の形の区別、ことに終止形(「美しい」「きれいだ」)と副詞相当の連用形(「美しく」「きれいに」)の学習を徹底させたい。

④9 森さんは何をしましたか。 ― ⑤7 静かになりました。

ここでは、「人が～を～する」文型でまず質問し、同じ内容の問答を「～が～になる」文型を使って言いかえる、ということを二度繰り返している。

■ 生活・文化

東京都内の大学生の約6割が地方出身者。そのうち約半分の3割ずつが下宿・アパート住まいか、学生寮に住んでいる。学生寮には大学が管理するもののほかに、学生の出身県の寮や、法人が管理するものなどいろいろある。個室は少なく、2人以上の相部屋がまだ多い。大学で学んでいる外国人で寮に住む者も多い。

『日本語教育映画 基礎編』 作成関係者

(指導・助言) 日本語教育映画等企画協議会委員 (所属は在任当時のもの)

池尾 ス ミ (米加十一大学連合日本研究センター)

石田 敏 子 (国際基督教大学)

今田 滋 子 (国際基督教大学)

木村 宗 男 (日本語教育学会)

工藤 浩 (国立国語研究所)

窪田 富 男 (東京外国語大学)

斎藤 修 一 (慶應義塾大学国際センター)

佐久間 勝 彦 (東京外国語大学)

杉戸 清 樹 (国立国語研究所)

(企画) 国立国語研究所日本語教育センター関係者 (在任当時関係者も含む)

野元菊雄 南 不二男 川瀬生郎 日向茂男 田中 望

清田 潤 中道真木男 林 大 武田 祈 水谷 修

(制作) 日本シネセル株式会社

この『教師用マニュアル』の企画・校閲・編集は国立国語研究所日本語教育センター日本語教育指導普及部教材開発室の日向茂男、清田潤が担当した。全巻にわたっての企画・校閲には中野泰子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)、野村美知子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)の両氏に多大な協力を得た。また印道緑、清地恵美子、戸川さやかの各氏に企画時の補助をお願いした。

このユニット3の原案執筆・検討には野村美知子、中野泰子、印道緑、鶴田庸子、細川晴子、吉本啓の各氏に助力を仰いだ。

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル

ユニット3

1984年11月15日 発行

企画・編集

国立国語研究所

・発行

〒115 東京都北区西が丘3-9-14 電話(30)900-3111

印刷

日本シネセル株式会社

〒107 東京都港区赤坂1-9-15 電話(03)582-2691-4